
もう一人の英雄

千

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

もう一人の英雄

【Nコード】

N0820BA

【作者名】

千

【あらすじ】

主人公の黒鉄爽児はある日遊戯王GXの世界に転生する。そこで様々な仲間と出会い、遊城十代とともに後に英雄と語り継がれる決闘者に成長していく。初投稿です。文才0の駄作者ですがよろしくお願いします

V S クロノス (前書き)

はじめまして千です

記念すべき第一話はクロノス教諭との決闘

それではお楽しみ下さい

V S クロノス

「爽児〜早く寝なさい〜」

1階からおふくろの声が聞こえてくる。

特にすることもないので明日に備えて寝るとするか。

やあ俺は黒鉄爽児^{くろがねそうじ}、転生者だ。

まあ神様（笑）のミスで死んでお詫びとして転生させてもらったっていういつものパターンだ。

それで俺がどこに転生したかって？

それは・・・

「受験番号1番、デュエル場に上がってください」

そう、俺は遊戯王GXの世界に転生したのだ。

何でGXの世界を選んだかは遊戯王シリーズで最も面白かったからだ。

全話見たので原作知識はばっちりだし正直俺はシンクロあまり好きじゃないし・・・

ま、いいか。えーと俺の相手は・・・

「これから実技試験を始めるノ〜ネ」

まさかのクロノス教諭。つかこの人の顔間近で見ると面白すぎる。

「お願いします」

「「決闘」」

「先攻は私なノ〜ネ、ドロ〜」ニヤリ

「私は天使の施しを発動するノ〜ネ。このカードの効果によって私はカードを3枚ドロ〜し、手札からカードを2枚墓地に送るの〜ネ。私は墓地にトロイホースと古代の機械兵士を墓地に送るノ〜ネ」

外野が「クロノス教諭が手札事故？」とか騒ぎ出す。そうか、この世界はまだ墓地アドがそれほど重要視されてなかったのか。

「私は早すぎた埋葬を発動するノ〜ネ。ライフを800ポイント払うこと〜で墓地にいるモンスター1体を特殊召喚しこのカードを装備するノ〜ネ。私はトロイホースを召喚。」

クロノスのフィールドに木製の馬が出現する。

トロイホース ATK1600

「トロイホースは地属性モンスターの生贄に使用する場合2体分の生贄とすることができるノ〜ネ。私はトロイホースを生贄に古代の機械巨人を生贄召喚するノ〜ネ」

トロイホースが光に包まれて消えると同時に巨大なモンスターがフィールドに出てくる。

古代の機械巨人 ATK3000

「これで私はターンエンドなノ〜ネ。」

外野が「終わったな。」とかうるさいが現世では攻撃力3000のモンスターが1ターン目で出てくるのは全然珍しくない。けど特殊召喚できない古代の機械巨人を1ターンで出すのはちょっとすごい

かな。

「さすがクロノス教諭、すごいな。」

「余裕ぶつても無駄なノ〜ネ。サレンダーするなら今のうちなノ〜ネ」

「誰がサレンダーなんてするか。俺のターン、ドロ〜」

俺は自分の手札を見る。よし、これならいける。

「俺はバイス・ドラゴンを手札から特殊召喚する。このモンスターは相手フィールド上にモンスターが存在し、自分フィールド上にモンスターが存在しない場合に攻撃力と守備力を半分にして手札から特殊召喚できる。そして俺はアックス・ドラゴニートを召喚する。」

バイス・ドラゴン ATK1000

アックス・ドラゴニート ATK2000

爽児のフィールドに2体の竜が並ぶ。

「そして俺は魔法カードドラゴニック・タクティクスを発動。自分フィールド上のドラゴン族モンスター2体を生贄にデッキからレベル8のドラゴン族モンスターを特殊召喚する。来い、ダークエンド・ドラゴン!!!」

2体の竜がフィールドから消え、漆黒の竜がフィールドに舞い降りる。

ダークエンド・ドラゴン ATK2600

「ふん、その程度のモンスターじゃ私の古代の機械巨人の足元にも及ばないノ〜ネ」

「それはどうかな。ダークエンドの効果発動。ダーク・イヴァポレーション!!!!」

爽児が合図した途端、古代の機械巨人が闇の中に吸い込まれていく。

「一体どうなってるノーネ!!!!?」

「ダークエンドは1ターンに1度攻撃力を500ポイント下げることとで相手のモンスター1体を墓地に送ることができる!!!!」

「ナンデス〜トォ〜!?!」

「それでも先生のフィールドにモンスターはいない。ダークエンドでダイレクトアタック、ダーク・フォッグ!!!!」

「パルメザンチ〜ズ!!!!」

クロノスLP4000⇒1900

「さらに俺は速攻魔法表裏一体を発動!俺の場のダークエンド・ドラゴンをデッキに戻し、デッキからライトエンド・ドラゴンを特殊召喚する!!!!」

ライトエンド・ドラゴン ATK2600

「ライトエンドで先生にダイレクトアタック！シャイニングサブリメイション！！！」

「マンマミゝア」

クロノスLP1900⇒0

「よっしゃあ」

「この私が負けるなどありえないノゝネ。」

「すげえあのクロノス教諭に勝った」「それもワンターンキルだぞ」「ライフが1も減ってないのに」「外野が騒ぎ出す。それもそうだろう。デュエルアカデミアの実技最高責任者のクロノス相手にワンターンキルの快挙を成し遂げたのだから。」

「むかつくけどさすがに不合格にするわけにはいけないノゝネ。だけれど文句をつけてドロップアウト寮に入れてやるノゝネ。ぐふふふ」

クロノスが卑劣な考えをしている間に1人の男性が拍手をしながら爽児達に近づいてきた。そしてクロノスの顔つきが変わった。

「校長！？」

「最上級モンスターに立ち向かう勇氣に冷静な判断、大変すばらしいデュエルでした。よって君はもちろん合格です。爽児君はオベリスク・ブルーに配属します。」

「まじっすか。やった〜!!」

「ぐぬぬぬぬ」

そうしてこの長い1日は終わった。

〈余談〉

そのあとクロノスは爽児に負けたイライラを他の受験生にぶつけ容赦なく30人近くの受験生を不合格にしていたが調子に乗って十代と決闘して負けることになった。

V S クロノス (後書き)

第一話どうでしたか？

他の転生物でよく見る

トロイホース⇒二重召喚⇒古代の機械巨人

をちょっと工夫してみました。が正直どっちでもいいですね。

次回は爽児が十代とデュエルする話を書きたいと思っています。

さようなら〜b y 千〜

V S 十代（前編）（前書き）

こんにちは千です。

前に予告したとおり今回は十代とのデュエルを書きます。
それではどうぞ

VS十代（前編）

「ガッチャ！楽しいデュエルだったぜ、先生！！」

出番が最初だっただけに爽児は観客席でいろんなデュエルをみていた。

あの状況であのチートじみたドローはすごいな。クロノスが俺に負けたときよりいらいらしてる。

「まあ面白いものが見れたな」

そう思って帰ろうとしたら

「おいそこのあんた」

声が聞こえる方向に振り向くと十代、翔、三沢がこっちに向かって走ってきていた。

「呼んでるのは俺か受験番号110番？」

「ああ、俺は遊城十代」

「僕は丸藤翔っス」

「俺は三沢大地だ。君のデュエルは見させてもらった。」

「そうか。俺は黒鉄爽児だ。」

「聞いたぜ。お前あのクロノス先生に1キルしたんだろ？なあ俺と

デュエルしようぜ」

遅かれ早かれこうなるとは思っていたけどまさか今日あっていきなりとはな。

まあ断る理由もないしいいか。

「いいぜ。俺もお前のHEROデッキを見てみたいしな。」

そういうと二人はデュエルディスクを構えた。

「「決闘」」

爽児LP4000

十代LP4000

「先攻は貰うぜ。俺のターン、ドロー!!」

いつも思うんだけど先攻後攻って早いもの勝ちで決めるのか？

先攻とれるように練習でもしよっかなあ

ま、いいや集中。

「俺はE・HEROバブルマンを守備表示で召喚するぜ」

E・HEROバブルマンDEF 1200（アニメ効果）

でたよ強欲な泡男。

「俺はバブルマンの効果を発動する。フィールド上に他のカードがない場合にこのモンスターの召喚に成功した場合、デッキからカー

ドを2枚ドロースる。」

OCGじゃまったく使えないのにアニメだったらほぼ強欲な壺じゃねーか。しかもこの世界だったら表側守備表示で召喚できるからなおさらチートだな。

「俺は手札から融合を発動。フィールドのバブルマンと手札のE・HEROクレイマンを融合！来い、E・HEROマッドボールマンを召喚！！」

E・HEROマッドボールマンDEF 3000

十代のフィールドの球体の戦士が腕を組んで現われる。かの青眼の白龍すら破壊できないまさに鉄壁のモンスターだ。

「俺はカードを2枚伏せ、ターンエンドだ」

「俺のターン、ドロース！俺は手札断殺を発動。お互いのプレイヤーは手札を2枚墓地に送りカードを2枚ドロースる。」

爽児と十代はカードを捨て、その枚数分ドロースる。

「いきなり手札事故っすかね？」と翔

「いや、爽児のことだ。何か考えがあるはずだ。」と三沢

「俺はバイス・ドラゴンを攻守を半分にして手札から特殊召喚する。そしてバイスドラゴンを生贄にストロング・ウィンド・ドラゴンを召喚する！」

ストロング・ウィンド・ドラゴンATK 2400

バイス・ドラゴンが消えて突風が吹き、新たな龍が爽児の場に現われる。

「このモンスターは生贄にささげたモンスターの攻撃力の半分の数値を自身の攻撃力に加算する。」

ストロング・ウィンド・ドラゴン 2400⇒3400

「マッドボールマンを上回ったッス」

「バトル！ストロング・ウィンド・ドラゴンでE・HEROマッドボールマンを攻撃！ストロングハリケーン！！！！」

ストロング・ウィンド・ドラゴンが繰り出した竜巻がマッドボールマンもろとも十代を襲う。

「そしてこのモンスターが相手の守備表示モンスターを戦闘によって破壊したとき攻撃力と守備力の差分の戦闘ダメージ与える。」

「うわぁ！」

十代LP4000⇒3600

「カードを2枚セットしターンエンドだ。」

「へへへ、楽しいぜ爽児。このデュエルすげえ楽しいよ。」

十代が笑顔で爽児に話しかけてきた。

「ああ、俺も楽しいぜ。」

爽児も笑顔で答える。

「こんな楽しいデュエルに負けるわけには行かないな。俺のターン、ドロー!!」

その場にいる全員にそのドローは輝いて見えた。

V S 十代（前編）（後書き）

自分の文才のなさに絶望です。まじで。

それにしてもバブルマンは鬼畜ですね。フィールドにカードがなかったらすぐ2枚ドロウなうえアニメでは表側守備表示でだせますからねゝ

次回は十代との決着を書くつもりです。

それでは千でした。さようなら

V S 十代（後編）（前書き）

こんにちは千です。

今回は十代とのデュエル決着です。

どうぞお楽しみ下さい

VS十代（後編）

「俺のターン、ドロー」

十代

LP 3600

手札 3枚

魔法・罠 2枚セット

モンスター なし

爽児

LP 4000

手札 1枚

魔法・罠 2枚セット

モンスター ストロング・ウィンド・ドラゴン ATK 3400

「俺は魔法カード命削りの宝札を発動。カードを5枚ドロし、5ターン後に手札を全て墓地に送る。」

「さらに融合回収を発動。墓地の融合と融合素材として墓地に送られたクレイマンを手札に加える。そして俺は手札に加えた融合を発動するぜ！俺は手札のE・HEROクレイマンとE・HEROスパークマンを融合する。来い、E・HEROサンダー・ジャイアント！！！！」

E・HEROサンダージャイアント ATK 2400

「俺は魔法カードHーヒートハートを発動。サンダー・ジャイアントの攻撃力を500ポイントアップさせ、貫通効果を与えるぜ」

E・HEROサンダー・ジャイアントATK 2400⇒2900

「だけどストロング・ウィンド・ドラゴンの攻撃力は3400。攻撃力がまだ足りないッス。」

あつ、そうか。確かサンダー・ジャイアントの初登場はあの偽ラブレター事件だからこいつの効果を知らないのか。

「ああ、確かに攻撃力じゃサンダー・ジャイアントは敵わない。だけど俺はサンダー・ジャイアントの効果を発動！元々の攻撃力がこのモンスターの攻撃力以下のモンスター1体を破壊する。ヴェイパー・スパーク！！」

サンダー・ジャイアントが放った雷撃がストロング・ウィンド・ドラゴンを直撃し、破壊する。

「ぐっ・・・」

「そうか、アニメのサンダー・ジャイアントの効果は手札コストなしの強制効果だったな」

「これで爽児、お前の場にモンスターはいない。サンダー・ジャイアントでダイレクトアタック！ボルテティック・サンダー！！！！」

サンダー・ジャイアントが放った雷が爽児を襲

わなかった。

「残念だったな十代。俺は罠カードガード・ブロックを発動した。俺が受ける戦闘ダメージを0にしてカードを1枚ドロウする。」

「うまい、これで攻撃力上がったサンダー・ジャイアントの攻撃を防ぎつつアドバンテージを稼いだぞ。」と三沢

「くっそー。通ったと思ったのにな。俺はターンを終了する。」

「俺のターン、ドロー」

「俺は墓地のミンゲイドラゴンの効果を発動する。」

「墓地からだっ。いつの間に！」

「忘れたのか十代、1ターン目に俺は手札断殺でこのカードを墓地に送ったんだ。そしてこのモンスターは自分フィールド上にモンスターが存在せず、自分の墓地のモンスターがドラゴン族だけだった場合スタンバイフェイズ時に墓地から特殊召喚できる。だがこの効果で特殊召喚したミンゲイドラゴンはフィールドから離れた場合ゲームから除外されるがな。」

ミンゲイドラゴンDEF 200

翼を広げた首の長い小型の竜が爽児のフィールドに現われる。

「このモンスターはドラゴン族モンスターの生贄とする場合2体分の生贄とすることができる。俺はミンゲイドラゴンを生贄にダーク

エンド・ドラゴンを召喚する！」

ダークエンド・ドラゴンATK 2600

「ダークエンドの効果を発動！サンダー・ジャイアントは墓地で眠ってもらう。ダーク・イヴァポレイション！！」

ダークエンド・ドラゴンATK 2600⇒2100

「よし、ダークエンドでダイレクトアタック、ダーク・フォ」させるかよ、俺は罠カードヒーロー見参を発動するぜ。相手モンスターの攻撃宣言時、相手は手札を1枚選ぶ。そのカードがモンスターだった場合そのモンスターを特殊召喚できる。さあ選べ爽児」・・・俺は一番右のカードを選ぶ。」

爽児が指定したカードは・・・

「よっしゃあ、俺はE・HEROエッジマンを特殊召喚するぜ！」

十代のフィールドに黄金の戦士が現われる。

「クソッ、ターンエンドだ。」

「俺のターン、ドロ。バトル、エッジマンでダークエンド・ドラゴンを攻撃、パワーエッジアタック！！」

「俺は罠カードドラゴン・エヴォリューションを発動。フィールドのドラゴン族モンスターを生贄にささげ、そのモンスターのレベル＋1のレベルを持つモンスターを手札から特殊召喚する。来いライトエンド・ドラゴン！！」

ライトエンド・ドラゴンATK 2600

「エッジマンと互角か……。だけど俺は攻撃を続ける、パワーエッジアタック!!」

「甘い、俺はライトエンドの効果を発動する!このモンスターの攻撃力を500ポイント下げることとで相手モンスターの攻撃力を1500ポイント下げる!ライト・イクスパンション!!」

ライトエンドドラゴンATK 2600⇒2100

E・HEROエッジマンATK2600⇒1100

ライトエンド・ドラゴンが放った光線がエッジマンに直撃しエッジマンを弱体化させた。

「うっ!!」

「向かい打て、シャイニングサプリーメイション!!」

「うわっ!!」

十代

LP3600⇒2600

「カードを1枚セットし、E・HEROフェザーマンを守備表示で召喚しターンエンドだ。」

E・HEROフェザーマンDEF 1000

「俺のターン、ドロ。」

「俺は攻撃の無力化をセットした。このターンは凌いでみせる。」

「俺は墓地のミンゲイドラゴンの効果を発動!!」

「えっ、ミンゲイドラゴンはさっき除外されたんじゃないんすか？」

「翔、誰も俺の墓地にいるミンゲイドラゴンが1体だけなんていてないぞ。」

「まさか手札断殺で2枚のミンゲイドラゴンを墓地に・・・」

「その通りだ三沢、来い、ミンゲイドラゴン！」

ミンゲイドラゴン DEF 200

「俺も命削りの宝札を発動し、カードを5枚ドロする。十代、このデュエル俺の勝ちだ。速攻魔法カード竜の魔眼発動。自分フィールド上のドラゴン族モンスターの数だけ相手の魔法・罠カードを破壊する。」

十代の伏せた攻撃の無力化とアナザー・フュージョンが破壊される。

「そして俺はミンゲイドラゴンを生贄にささげ、俺の最強の切り札、光と闇の竜を召喚する!!」

光と闇の竜 ATK 2800

ミンゲイドラゴンが消えると同時に直視できないほどの眩しく美しい竜がフィールドに舞い降りる。

「すげえ、すげえよ爽児！こんなモンスターを召喚するなんて、お前本当に最高だぜ！」

「ああ、このデュエルはとても楽しかった。が、俺の勝ちだ。ライトエンドでフェザーマンを攻撃、シャイニングサプリーメイション！
！」

「グッ！」

「これで終わりだ。光と闇の竜でダイレクトアタック、シャイニングブレス！！！！！」

十代

2600⇒0

こうして二人のデュエルは爽児の勝利で終わった。

V S 十代（後編）（後書き）

はい、結局爽児の勝ちで終わりました。十代ファンの皆さんゴメンね。

今更ですがライトエンド・ドラゴンとダークエンド・ドラゴンは漫画GXと同じものだと考えてください。あとドラゴン・エヴォリションや竜の魔眼等漫画カードもバンバン使っていくので、「あれ、こんなカードあったっけ」みたいなことがあったら未OCカードwikiで調べてください。作者は基本そこから選んでいます。

あとお気に入り登録してくださった方々本当にありがとうございます。質問、アドバイス等もあったら遠慮なく言ってください。

次はデュエルアカデミア入学と万丈目に絡まれる話を書きます。

それではさようなら

VSオベリスクのバカAとBとC（前書き）

こんにちは千です。

まずお気に入り登録してくれた方々ありがとうございました。
これからも頑張ります。

あと今回から『今回の最強カード』の企画を始めます。
暇な人は最後に乗ってるからぜひ見てください。

それではお楽しみ下さい

VSオベリスクのバカAとBとC

「光と闇の竜の攻撃、シャイニングブレス!!!!」

「うわああああ」

十代 LP 2600⇒0

十代のライフが0になった瞬間お互いのソリッドヴィジョンが消える。

「くっそー負けちまったか。」

「惜しかったな。俺がもし竜の魔眼を引かなかったらお前はこのターンは生き延びたかも知れないのにな。」

「ああ、けどすっげえ楽しかったぜ。もう一回やろうぜ!」

このデュエル馬鹿は・・・

「待ってくれ、俺ともデュエルしてくれないか?」

「ば、僕もやりたいッス。」

「悪いな、けど今日は疲れた。アカデミアにいたらまたやろうぜ。」

「本当か? 約束だぞ。」

び、ふかふかのベッドがあった。
部屋を一通り見たあと爽児は荷物を置いてベッドで寝転がっていた。
すると

ピピピピピ

「おっPDAが鳴ってる。」

PDAとはアカデミアの生徒に支給される携帯電話のようなもので、生徒間の通話やメールは勿論、先生からの連絡や辞書、カードの資料、学園内の地図などがある優れた機械だ。

「FROM先生

7時の新生歓迎会まであと20分なので遅れないように。

場所はオベリスク・ブルー寮のホール。

尚新生との交流を深めるためにデュエル大会をやるので各自デッキを持参するように。

以上。」

「あと20分か……。どうせ早く行っても暇だろうからちよつと外の空気を吸ってくるか。」

こんな感じで爽児は外に出て……………

早速絡まれるのであった。出たサンダー+その取り巻き……

「貴様が黒鉄爽児か。まぐれとは言えどもあのクロノス教諭を1キルしたデュエリストは。」

わざわざ「まぐれ」の部分を強調するあたりが腹立つな。

「そうだがお前は誰だ？」

「おおと失礼。俺の名前は万丈目準だ。俺様が貴様に声をかけた理由はひとつ。俺達の一緒にこの学園をよりよい学園にする計画の協力者とならないか？」

どうせろくでもない計画なんだろうけど一応聞いてみるか。

「へえ、面白そうだな。一体どんな計画だ？」

「良くぞ聞いてくれた。デュエルアカデミアには3つの階級が存在する。我らが選ばれしエリートブルー、デュエルの腕も勉強も中途半端なイエロー、あらゆるものに落ちこぼれているレッドの3つだ。なぜ我らがエリートがこんなドロップアウト共と学園生活を送らなければならないのだ。そこで考えた。邪魔者は排除すればいいだけだ。エリートではないレッドやイエローを学校から追い出し、この学校をエリートの学園にすればいいのだ。どうだ、黒鉄爽児、お前もこの計画の協力者となるr「断る。」・・・何だと？」

「断るって言ったんだ。確かにイエローやレッドはブルーに比べて劣っているものがあるかもしれない。だからって学園から排除する？寝言は寝てから言え馬鹿野郎。」

「何だと」

「てめえ」

「言わせておけば」

「うるせえよ。それにお前が落ちこぼれだというレッドやイエローに俺が知ってる中で一人ずつお前らなんか瞬殺するデュエリストを俺は知ってるぞ。」

「「あんだとお」「」」

「待てお前ら。聞いてみようか、お前がそこまで言う落ちこぼれのことを。」

「イエローの三沢大地にレッドの遊城十代だ。おっ噂をすれば。おい、十代！」

偶然そこには道に迷った十代と翔がいた。

「おー爽児。助かった。あのさレッド寮への行き方教えてくんねえか？」

「ふん、こんな道も分からないような奴が俺達を瞬殺だど？笑わせる。レッド寮はここから南に真っ直ぐ行って灯台が見えたら右折すればすぐ見える。」

地味に道案内した。もしかしてこいつ意外といい奴なのか？

「おお、サンキュー。じゃあな爽児。約束覚えてるよな。」

「ああ、勿論だ。」

「……ちょっと待てえええええ！」

「うお、どうした万丈目」

「万丈目『さん』だ。おい遊城十代。貴様今ここで俺様とデュエルしろ。貴様らにエリートと落ちこぼれの格の違いを見せつけたやる。」

「デュエルはいつでも大歓迎だぜ」

「「決闘「そこまでよ」」」

声がした森の方向を向くとそこに明日香がいた。

「すごい美人だな。だけどこいついつから居たんだ？」

「黒鉄君あなた今私の影が薄いつて思ったでしょ。」

「何で分かったんだ？」

「凶星のようね」

「天上院君、今この落ちこぼれにデュエルアカデミアの厳しさを叩き込んでやるところだったんだ。邪魔しないでくれるかな。」

「あなた達デュエルするのはいいけど新入生歓迎会まであと5分よ。」

「やべえ、じゃあな万丈目、爽児。行くぞ翔！」

「僕台詞1つもなかったッス」

あっ翔居たんだ。

「万丈目『さん』だ！！俺らも行くぞ。」

「「はい、万丈目さん」」

「ありがとな、えーと・・・」

一応初対面なので知らない振りをする。

「天上院明日香よ。明日香って呼んで頂戴。」

「分かった。じゃ俺も爽児って呼んでくれ。苗字で呼ばれると違和感がある。けど何で明日香は俺のこと知ってるんだ？」

なんでだろう。普通に質問しただけのにため息つかれた。

「あなたがどれだけ目立ってるか知らないの？あのクロノス教諭を1キルして、その日に同じくクロノス教諭に勝った遊城十代にノーダメージで勝利して、それにその容姿・・・」

俺って人気なんだな。最後のはよく分かんないけど。

「とりあえず万丈目君には気をつけたほうがいいわよ。彼は自分がエリートだって豪語してるけど、口だけではないからね。デュエルの腕もすごいし、あの万丈目グループの三男だしね。」

明日香って情報通なんだな。

「ありがとう、気をつけておくよ。」

俺がデュエル場に着いたらそこに万丈目、その取り巻き、十代と明日香がいた。

「来たか黒鉄爽児。俺は遊城十代を潰すが、お前も暇だろう。こいつらと遊んでろ。適当に一人選んでデュエルしとけ。」

「面倒くせえな。一人じゃなくて三人まとめてかかってこいよ。三人もいれば俺のライフを1ぐらい減らせるんじゃないのか？」

挑発しすぎたかな？

「てめえ、調子に乗りやがって」

「上等だ、やってやるよ」

「万丈目さん、デュエル場を使いますよ。」

うお、マジギレした。

「いいだろう、お前ら速攻で終わらせろよ。」

「ああ、速攻で終わらせてやるよ。俺に瞬殺されるって意味でな。」

「いいの、爽児？一応彼らもブルーの中でも成績上位の生徒達よ。」

「余裕だってこんな奴ら」

そうして4人はデュエル場へ上がった。

「」「」「決闘」「」

爽児 LP 4000

オベリスクのバカA LP 4000

オベリスクのバカB LP 4000

オベリスクのバカC LP 4000

「ルールを確認する。順番は俺⇒A⇒B⇒Cで1ターン目は誰も攻撃できない。ライフは全員4000だ。いいな。」

「「誰がA、B、Cだ「俺のターン、ドロ」」「」」

3人の声を遮るようにわざと大声でドロする爽児。

「俺はミンゲイドラゴンを守備表示で召喚。カードを4枚セットしターンエンドだ。」

ミンゲイドラゴン DEF 200

「俺のターン、ドロ。俺は切り込み隊長を召喚する。このモンスター1の召喚に成功したとき、手札からレベル4以下のモンスター1体を特殊召喚。俺は2体目の切り込み隊長を召喚！」

切り込み隊長 ATK 1200×2

「このモンスターがフィールド上に存在する限り相手は表側表示で存在するほかの戦士族モンスターを攻撃対象にできない。つまり、お前は俺に攻撃できない。ターンエンドだ。」

ただの切り込みロックじゃねえか。そんな得意げに言うんじゃないよ。

「俺のターン、ドロー。俺は二重召喚を発動。俺はこのターン2回通常召喚が行える。俺はマシュマロンと魂を削る死霊を守備表示で召喚。ターンエンドだ。」

マシュマロン DEF 500

魂を削る死霊 DEF 200

おい、普通こういうのは裏守備でセットだろうが。

「俺のターン、俺はゴブリン突撃部隊を召喚「罠カード激流葬を発動。モンスターが召喚・反転召喚・特殊召喚されたときに発動でき、フィールド上の全てのモンスターを破壊する。」

「くそっ、ターンエンドだ。」

「俺のターン、この瞬間ミンゲイドラゴンを蘇生する。」

ミンゲイドラゴン DEF 200

「このモンスターはドラゴン族モンスターの生贄召喚に使用する場合2体分の生贄とすることができる。俺はミンゲイドラゴンを生贄にライトエンド・ドラゴンを召喚。」

ライトエンド・ドラゴン ATK 2600

「ライトエンドでAにダイレクト、シャイニングサプリーメイション
！！」

「うっ」

オベリスクのバカA LP 4000⇒1400

「速攻魔法表裏一体を発動。フィールドのライトエンドをデッキに
戻し、ダークエンドを特殊召喚する。」

ダークエンド・ドラゴン ATK 2600

「ダークエンドでAにダイレクト、ダーク・フォッグ！！」

「だからAじゃねえ」

オベリスクのバカA LP 1400⇒0

「俺は伏せカード破壊輪を発動。フィールド上のモンスターを破壊
し、そのモンスターの攻撃力分のダメージを全てのプレイヤーは受
ける。さらにチェーン発動、地獄の扉越し銃。自分が受けるダメー
ジを相手に与える。俺が選択するのはB。」

「うそだあ」

オベリスクのバカB LP 4000⇒0

「うわああ」

オベリスクのバカC LP 4000⇒1400

「まだ俺のバトルフェイズは終わってない。俺はリビングデッドの呼び声を発動。墓地のダークエンドを蘇生する。」

ダークエンド・ドラゴン ATK 2600

「ダークエンドでCに攻撃、ダーク・フォッグ!!」

「俺何もしてね」

オベリスクのバカC LP 1400⇒0

「すごい、1ターン3キル・・・」

「さすが爽児、すげえ。」

「ちっ、使えん屑共が・・・」

3人は爽児の前でがたがたに震えてる。あとで万丈目に叱られることは確実な上にアンティで負けたのだからベストカードを渡さなければならぬからだ。

「アンティのことだが・・・」

3人は半ば諦めている。

「さらば俺のギルフォード・・・」

「俺のメフィストがあ」

「くそ、ガーゼットだけは許してくれ」

「・・・いらぬ。別にてめえらのカードが欲しくて来たわけじゃないからな。」

爽児がこういうと3人の顔に光が満ちた。

「さすがね、爽児。」

「おお明日香か。あの程度朝飯前だつて。」

「爽児次は俺とやろうぜ。」

「貴様の相手はこの俺様だあ！！！！」

「俺はもう帰る。明日香あとでデュエルの結果教えてくれ。じゃあな」

初の原作ブレイクはこんな風に終わった。余談だが明日香から聞いた話によると十代と万丈目のデュエルは原作どおりガードマンに中断されるも結果十代の勝ち逃げっぽくなったとさ。

V S オベリスクのバカAとBとC（後書き）

『今回の最強カード』は……………

破壊輪

……1回目の最強カードが禁止カードって
まあいいや。まずは破壊輪の効果から見てみましょう

通常罠（禁止カード）

フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体を破壊し、
お互いにその攻撃力分のダメージを受ける。

（遊戯王カードwikiより）

このカードが凶悪な理由はフリーチェーン、つまり発動タイミング
が自由なこと。そして相手モンスターが破壊できることです。バー
ン効果も見逃せるものではなく実質直接攻撃を食らうようなもので
す。

昔は

デビル・フランケン⇒青眼の究極竜⇒破壊輪⇒地獄の扉越し銃で1
キルが行われてました。カードプールが豊富な今制限復帰はないで
しょう。ちなみに破壊指輪とかいう後釜もあります。この小説では
遊戯王gxの禁止・制限リストに則っているので破壊輪はOKです。

読者の皆様に質問ですがこの小説では遊戯王gx時代のように「生
贄」「生贄召喚」と表現しますが「リリース」「アドバンス召喚」
等に言い換えたほうがいいでしょうか？あと小説1回分は長すぎま
すか？短すぎますか？指摘がなかったらこのままにしますがご意見、

感想、アドバイス等があったら遠慮なく言ってください。

長くなりましたがさようなら。

V S 明日香&楓（前編）（前書き）

こんにちは千です。

今回は遂に今作品のヒロインが登場します。

頑張って書きますが過度な期待はしないで下さい。

それではどうぞ。

V S 明日香&楓（前編）

ピピピピピ

「何だこんな時間にメール？」

「マルフジシヨウハアズカッテイル。カエシテホシクバ、ユウキジ
ユウダイトトモニジヨシリヨウマデコラレタシ」

ああそういえば偽ラブレター事件は今日だったな。

ピピピピピ

「今度はなんだ？」

「FROM 遊城十代

爽児大変だ！翔が攫われた！今から俺は女子寮に行くけどどうする
？」

「仕方ないなあ、行ってやるか」

そうして俺は十代と落ち合って、小船に乗って女子寮に向かった。

「アニキ！爽児君！」

女子寮に着いたら案の定縄で縛られてる翔と明日香、枕田、浜口と
知らない顔が一人いた。

「きゃ、黒鉄様もいますわ。」

「近くで見るとかつこよさが一層際立ちますわね」

なんか騒がしいな。ま、一応知ってるけど聞いてみるか。

「翔、お前何したんだ・・・」

「それが、話せば長くなるようなならないような・・・」

「こいつが女子寮の風呂を覗いたのよ」

やっぱり

「翔、お前の気持ちは分からんでもないがこの世の中にはやっていいことと悪いことがあってだな・・・」

「だから僕は覗いてないッス」

「このことが学校にばれたら退学は確実ね。そこで提案なんだけど私達とデュエルしない？あなた達が勝ったらこのことは水に流してあげるわ。私達が勝ったら丸藤君は退学、二人もただじゃすまないわ」

う、地味に俺らも巻き添え食うのかよ・・・

「デュエルなら大歓迎だぜ」

さすが十代、即答だな。

「折角2人いるんだしタッグデュエルにしましょう。私と楓対あな

た達二人。どう？」

「ふえ、私？」

楓が自分を指差す。

「いいじゃない、あなたも爽児とデュエルしてみたいでしょ？」

「う、うん。」

俺とデュエルしたいってのは嬉しいが何でわざわざ頬を赤くするんだ？

「最初のターンは誰も攻撃できない。順番は私⇒十代⇒楓⇒爽児でいいわね。」

「おう」

「それじゃあ」「」「決闘」「」

明日香&楓ペア LP 4000

十代&爽児ペア LP 4000

「先攻は私、ドロー。私はエトワール・サイバーを攻撃表示で召喚。」

エトワール・サイバー ATK 1200

「カードを2枚セットしてターン終了よ。」

「俺のターン、ドロ。俺は魔法カード融合を発動！E・HEROバーストレディとフェザーマンを融合する。来いE・HEROフレイムウィングマン！！」

E・HEROフレイムウィングマン ATK 2100

「カードを1枚セット、ターンエンドだ。」

「私のターン、ドロ。」

さあお手並み拝見といこうか。

「私はフィールド魔法、魔法都市エンディミオンを発動します。」

周りに神秘的な建物が立ち並ぶ。

「手札からサイクロンを発動します。あの伏せカードを破壊！」

十代が伏せたヒーローバリアが破壊される。

「さらに魔法カードが発動されたことにより魔法都市エンディミオンに魔力カウンターがのります。」

魔法都市エンディミオン

魔力カウンター 0⇒1

「私は魔法カード魔力掌握を発動します。フィールドの魔力カウンターがのせることのできるカードに魔力カウンターを1個のせ、デッキから新たな魔力掌握をサーチします。」

魔法都市エンディミオン
魔力カウンター 1⇒3

「私は手札からブラック・コアを発動します。手札の魔力掌握を墓地に送りE・HEROフレイムウイングマンをゲームから除外します。そして魔力カウンターがのります。」

突如現われた黒い球体がフレイムウイングマンが襲う。

魔法都市エンディミオン
魔力カウンター 3⇒4

「私はおろかな埋葬を発動。デッキから神聖魔導王エンディミオンを墓地に送ります。そして魔法都市エンディミオンに新たな魔力カウンターがのります。」

魔法都市エンディミオン
魔力カウンター 4⇒5

「最後に私は強欲な壺を発動。カードを2枚ドロ。くどいようですが魔力カウンターがのります。」

魔法都市エンディミオン
魔力カウンター 5⇒6

「墓地の神聖魔導王エンディミオンの効果を発動。魔法都市エンディミオンにのってる魔力カウンターを6つ取り除くことでこのモンスターは手札および墓地から特殊召喚できます。来てエンディミオン！」

魔法都市エンディミオン

魔力カウンター 6⇒0

神聖魔導王エンディミオン ATK 2700

「この効果でエンディミオンの特殊召喚に成功したとき墓地の魔法カードを1枚手札に加えます。私は強欲な壺を選択。そして発動、カードを2枚ドロー。このとき魔法都市エンディミオンの魔力カウンターがのります。カードを2枚セットしてターンエンドです。」

魔法都市エンディミオン

魔力カウンター 0⇒1

「すげえな1ターンでエンディミオンを召喚するとはな。俺も負けらんねえな。俺のターン、ドロー。俺は天使の施しを発動する。カードを3枚ドローし2枚捨てる。」

「そのとき魔法都市エンディミオンに魔力カウンターがのります。」

魔法都市エンディミオン

魔力カウンター 1⇒2

「俺は手札からバイス・ドラゴンを攻守を半分にして特殊召喚。」

バイス・ドラゴン DEF 1200

「そしておれはバイス・ドラゴンを生贄にストロング・ウィンド・ドラゴンを召喚する。このモンスターは生贄にささげたドラゴン族モンスターの攻撃力の半分を得る。」

ストロング・ウィンド・ドラゴン ATK 3400

「カードを2枚セットしてターンエンドだ。」

「私のターン、ドロ。私は魔法カード融合を発動。フィールドのエトワール・サイバーと手札のブレード・スケーターを融合。サイバー・ブレイダーを融合召喚。」

サイバー・ブレイダー ATK 2100

魔法都市エンディミオン
魔力カウンター 2⇒3

「相手フィールド上にモンスターが1体しか存在しない場合このモンスターは戦闘で破壊されない。私はフュージョンウェポンを装備。サイバー・ブレイダーの攻撃力を1500ポイントアップする。」

サイバー・ブレイダー ATK 2100⇒3600

魔法都市エンディミオン
魔力カウンター 3⇒4

そういえばアニメではサイバー・ブレイダーはレベル6だったな。

「バトル!! サイバー・ブレイダーでストロング・ウィンド・ドラゴンを攻撃、グリッサード・スラッシュ!!」

「俺は罠カードくず鉄のかかしを発動。相手モンスターの攻撃を無効にし、発動後再びこのカードをセットする。」

「くっ、ターンエンドよ。」

「俺のターン、ドロ。俺は融合回収を発動。墓地の融合とフェザーマンを手札に加える。そして融合を発動する。俺はE・HEROスパークマン、フェザーマン、バブルマンを融合するぜ。融合召喚！！現われるE・HEROテンペスター！！」

E・HEROテンペスター ATK 2800

魔法都市エンディミオン
魔力カウンター 4⇒6

「行けテンペスター、神聖魔導王エンディミオンを攻撃だ。カオステンペスト！！」

「罠カード魔法の筒を発動します。相手モンスターの攻撃を無効にしそのモンスターの攻撃力分のダメージを相手に与えます。」

「うわああ」

十代&爽児ペア LP4000⇒1200

「ターンエンド。」

「私のターン、ドロ。私は魔導騎士ディフェンダーを守備表示で召喚します。」

魔導騎士ディフェンダー DEF 2000

「このモンスターの召喚に成功したときこのモンスターに魔力カウンターをのせます。」

魔導騎士ディフェンダー

魔力カウンター 0⇒1

「私は神聖魔導王エンディミオンの効果を発動。1ターンに1度手札から魔法カードを墓地に送ることでフィールド上のカードを1枚破壊します。私は ブラックホールを墓地に送り、くず鉄のかかしを破壊します。」

「俺はテンペスターの効果を発動。くず鉄のかかしを墓地に送り、このモンスターはこのターン戦闘では破壊されなくなる。」

「くっ、私は明日香さんのサイバー・ブレイダーでE・HEROテンペスターを攻撃します。グリッサード・スラッシュ！」

「テンペスターは戦闘で破壊されない。」

「でも戦闘ダメージは受けてもらいます。」

十代&爽児ペア LP 1200⇒400

「ターンエンドです。」

「へへ、楽しくなってきたぜ。なあ爽児？」

「ああ、面白い。ここら辺で一気に逆転するか。俺のターン、ドロ
ー！！！」

「顔つきが変わった。」

明日香と楓はここからのデュエルは今までどおりには行かないことを直感で感じ取っていた。

V S 明日香&楓（前編）（後書き）

折角のヒロインをまったく活かせてない自分の文章力の低さが憎いです（泣）

さあ今回の最強カードは神聖魔導王エンディミオンです
さて効果を見てみましょうか。

効果モンスター

星7／闇属性／魔法使い族／攻2700／守1700

このカードは自分フィールド上に存在する

「魔法都市エンディミオン」に乗っている魔力カウンターを6つ取り除き、

自分の手札または墓地から特殊召喚する事ができる。

この方法で特殊召喚に成功した時、

自分の墓地に存在する魔法カード1枚を手札に加える。

1ターンに1度、手札から魔法カード1枚を捨てる事で、
フィールド上に存在するカード1枚を破壊する。

（遊戯王カードwikiより）

魔力カウンター6つって難しそうですが魔法都市エンディミオンでは魔力カウンターを貯めるのって大分ラクですよ。現に楓も1ターンでの召喚に成功してる訳ですし。魔法カードをサルベージする効果やカードを破壊する効果も地味に強い。だけどデッキから召喚できないのが玉に傷。おろかな埋葬で落としましょう。

今回はタグデュエルの決着を書きます。

それでは千でした。さようなら！

V S 明日香&楓（後編）（前書き）

こんにちは千です。

今回は明日香&楓戦の決着をお楽しみください。

VS明日香&楓（後編）

「俺のターン、ドロー!!」

明日香&楓ペア LP 4000

明日香

手札 1枚

魔法・罠 2枚セット＋フュージョン・ウェポン

モンスター サイバー・ブレイダー ATK 3600（フュージョンウェポン）

楓

手札 1枚

魔法・罠 1枚セット＋魔法都市エンディミオン（魔力カウンター6つ）

モンスター 神聖魔導王エンディミオン ATK 2700＋魔導

騎士ディフェンダー DEF 2000

十代&爽児ペア LP 400

十代

手札 0枚

魔法・罠 0枚

モンスター E・HEROテンペスター ATK 2800

爽児

手札 3枚

魔法・罠 1枚セット

モンスター なし

「俺は墓地のライトエンドとダークエンドをゲームから除外する。」

「いつの間にそんなカードを墓地に？」

「楓、多分1ターン目に発動された天使の施しよ。」

「ご名答。さすが明日香だな。俺は2体のモンスターをゲームから除外しダークフレア・ドラゴンを特殊召喚する。」

ダークフレア・ドラゴン ATK 2400

「俺はダークフレアの効果を発動！手札のアックス・ドラゴニウトとデッキのエクリプス・ワイバーンを墓地に送る。そして俺の墓地のストロング・ウィンド・ドラゴンをゲームから除外。さらにエクリプス・ワイバーンの効果発動！このモンスターが墓地に送られたときデッキから光属性または闇属性のレベル7以上のドラゴン族モンスターをゲームから除外する。俺はダークストーム・ドラゴンをゲームから除外！」

次々とモンスターが墓地に行ったり除外されていく。

「さらに俺は天よりの宝札を発動。全てのプレイヤーは手札が6枚になるようにドローする。」

魔法都市エンディミオン

魔力カウンター 6⇒7

〔想像以上にやるわね〕

「この状況で最強の手札増強カード・・・」

「やっぱ最高だぜ、爽児は」

上から明日香、楓、十代だ。それぞれカードを6枚になるようにドロウする。

「俺は罠カードバーストブレスを発動。ダークフレアを墓地に送り、そのモンスターの攻撃力以下の守備力のモンスターを全て破壊する！！」

ダークフレア・ドラゴンが放った業火が明日香と楓のモンスターを襲う。

「私は魔導騎士ディフェンダーの効果を発動します。このモンスターの魔力カウンターを取り除くことで魔法使い族モンスターの破壊を防ぎます。さらに魔法都市エンディミオンの効果を発動。自分フィールド上に存在する魔力カウンターを取り除いて自分のカードの効果を発動する場合、代わりにこのカードに乗っている魔力カウンターを取り除く事ができます。魔法都市エンディミオンの魔力カウンターを2つ取り除きエンディミオンとディフェンダーの破壊を無効にします。」

魔法都市エンディミオン

魔力カウンター 7⇒5

「俺はトラップ・ブースターを発動。手札を1枚捨て、このターン1度だけ手札から罠カードを発動できる。俺は墓地のダークフレア・ドラゴンと今捨てたフェルグラント・ドラゴンをゲームから除外し

てライトパルサー・ドラゴンを特殊召喚。」

ライトパルサー・ドラゴン ATK 2500

魔法都市エンディミオン

魔力カウンター 5⇒6

「俺は手札から罨異次元からの帰還を発動。ライフを半分払いゲムから除外されているモンスターを可能な限り特殊召喚する。来い、
ダークエンド、ダークブレイズ、ダークストーム!!!!!!」

十代&爽児ペア LP 400⇒200

ダークエンド・ドラゴン ATK 2600

ダークブレイズ・ドラゴン ATK 2400

ダークストーム・ドラゴン ATK 2700

爽児のフィールドに4体の竜が並ぶ。

「さらにダークストーム・ドラゴンを再度召喚して永続魔法一族の
結束を発動。ダークストームの効果発動。自分フィールド上に表側
表示で存在する魔法・罨カードを1枚墓地に送ることでフィールド
上の魔法・罨を全て破壊する。」

魔法都市エンディミオン

魔力カウンター 6⇒7

明日香のフィールドのドゥールパッセと攻撃の無力化、楓のフィ

ールドの漆黒のパワーストーンが破壊される。

「くっ、魔法都市エンディミオンの効果発動です。魔力カウンターを1つ取り除くことでこのカードの破壊を防ぎます。」

魔法都市エンディミオン

魔力カウンター 7⇒6

「ダークエンドの効果発動。このモンスターの攻撃力を500ポイント下げ相手モンスター1体を墓地に送る。俺が選択するのは魔導騎士ディフェンダー！墓地に送る効果だからディフェンダーの効果は使用できないぜ、ダーク・イヴァポレイション！！」

ダークエンド・ドラゴン ATK 2600⇒2100

魔導騎士ディフェンダーが闇に吞まれて消える。

「バトル、テンペスターで神聖魔導王エンディミオンを攻撃、カオステンペスト！！」

「きゃっ！」

明日香&楓ペア LP 4000⇒3900

「これで終わりだぁ！！ダークブレイズとライトパルサーでダイレクトアタック、ダーク・バーニング、ホーリー・ブレス！！」

オリジナルの攻撃名を叫ぶのって恥ずかしいな・・・

「「きゃあぁ」」

「そう・・ならいいけど・・先生が来るまでに早く戻りましょう。」

「うん、分かった。」

黒鉄爽児君かぁ。彼も私と同じ転生者かな。確かアニメではいなかったよね。

すごい強かったな。またいつか相手してもらえるかな？

それにかっこよかった・・・ポツ

V S 明日香&楓（後編）（後書き）

今回の最強カードは・・・異次元からの帰還！

効果は・・・

通常罠（制限カード）

ライフポイントを半分払って発動する。

ゲームから除外されている自分のモンスターを

可能な限り自分フィールド上に特殊召喚する。

エンドフェイズ時、この効果で特殊召喚した全てのモンスターはゲームから除外される。

（遊戯王カードwikiより）

ライフポイントを半分ってのはほとんどない数値ですが裏を返せばデュエル終盤で残りライフがわずかでも発動できるともいえます。除外を多用するデッキの切り札ですね。エンドフェイズに除外されるのでそのターンで勝負えを決めましょう。似た効果の禁止カード次元融合はエンドフェイズに除外されない分、固定されたライフを払わなければいけない上相手モンスターも帰還します。しかしそれでも魔法カードならではの速攻性があるので一長一短の関係です。

今回は月1テスト。波乱の実技試験。オリキャラも出す予定です。

それではさようなら

V S 恵（前編）（前書き）

こんにちはー千です。

今回はヒロインの恋のライバルが出現！楓と壮絶なデュエルを繰り広げる・・・予定です。

どうぞお楽しみ下さい。

V S 恵（前編）

『問1 プレイヤーAの青眼の白龍とプレイヤーBのバスター・ブレイダーが戦闘を行った。戦闘に勝利するのはどちらで戦闘ダメージはどのプレイヤーにどれだけ与えられるか答えろ。』

今俺達は月1試験を受けてる最中だ。

『問2 次のうちブラック・マジシャンの専用サポートカードではないものを答えろ。』

1. 黒・魔・導
2. 千本ナイフ
3. 熟練の黒魔術師
4. デイメンション・マジック』

遊戯王好きの俺にとってはこんなもの余裕な訳で・・・

『問3 炎の剣士の融合素材を答えろ』

満点確実だ。

こんな感じの問題が50問ほどあって俺は試験時間の4分の1すら使わず終わったが、周りの生徒は机に突っ伏したり、必死に頭ひねって考えたり、諦めて呆けてる奴とかいろいろだ。

「・・・それでは筆記試験は終了だ。試験官がテストを回収するまで待機だ。尚11時から実技テストがあるので準備しておくように。・・・枚数確認を終了したので解散。」

生徒達はそれぞれ友達のところに行って「できた〜?」とか「死んだ〜」とか「来月は頑張ろう」とか言っていて、ここらへんは普通の高校生なんだなっと実感する爽児であった。

「ねえ、爽児君。テストどうだった？」

ここにいる葉月楓もその一人。あの偽ラブレター事件以来俺らは結構仲良くなつて頻繁にお互いの部屋でデュエルしたりしゃべったりとしている。最もその間の視線（特に男子の）が痛い……。ほら、今も殺気が俺に……

「ん、まあできたと思うぜ。そういう楓はどうなんだ？」

「え、私？ 私は全然だったよ。あ、そういえば問2の答えて千本ナイフだったりする？」

「残念、問2はディメンション・マジックだ。あれはブラック・マジシャンだけじゃなくてどんな魔法使い族モンスターにも使えるカードだ。」

「ううゝ今回のテストやばいなあ。」

楓が泣きそうな顔になってる。やばい、励ましてあげないと。

「安心しろって。来月もテストはあるんだから頑張ればいいじゃん。それに実技もあるしな。お前なら実技でいい点取れるって。」

「ほ、本当？」

よし成功。

「ああお前ならできるって。それに前俺があげたカードあるだろ。あれを使えば余裕余裕。あとちょっとで実技始まるから見に行こう

そういつて楓はデュエル場に走っていった。

「さてと応援に行くか」

「――――」

「よろしくね葉月さん。」

「は、はい。よろしくお願いします。」

「ふふ、緊張してるわね。私はこのデュエル絶対に勝たないといけないの。悪いけどあなたには負けてもらうわ。」

「「決闘」」

楓 LP 4000

恵 LP 4000

「先攻は貰います。ドロー。私は魔導騎士ディフェンダーを守備表示で召喚します。」

魔導騎士ディフェンダー DEF 2000

「カードを2枚セットし、ターンエンドです。」

「私のターン、ドロー。私は因幡之白兔を召喚。」

因幡之白兔 ATK 700

「このモンスターは相手に直接攻撃することができる。行け、因幡之白兔プレイヤーに直接攻撃。」

「きゃっ!!」

楓 LP 4000⇒3300

「私はバトルフェイズを終了し暗黒の扉を発動。このカードが発動されている限り、お互い1ターンに1度しか攻撃宣言を行えない。カードを2枚セットしターン終了。このときスピリットモンスターである因幡之白兔は手札に戻るわ。」

そういい終えると因幡之白兔が光に包まれ恵の下に戻る。

「くっ、私のターン、ドロー。私は召喚僧サモンプリーストを守備表示で召喚します。」

召喚僧サモンプリースト DEF 1600

「サモンプリーストの効果を発動します。手札の魔法カードを1枚墓地に送りデッキからレベル4のモンスターを特殊召喚します。」

サモンプリーストが怪しげな呪文を唱える。

「私が選ぶのはクルセイダー・オブ・エンディミオン。」

クルセイダー・オブ・エンディミオン ATK 1900

「サモンプリーストの効果で召喚したモンスターはこのターン攻撃できません。けど私はディフェンダーの表示形式を変更します。」

魔導騎士ディフェンダー ATK 1600

「私はディフェンダーで恵さんにダイレクトアタック。」

魔導騎士ディフェンダーが手に持つ短剣で恵を切りつける。

「ぐっ」

恵 LP 4000⇒2400

「ターンエンドです。」

「私のターン、ドロー。私は阿修羅を召喚するわ。」

阿修羅 ATK 1700

「強欲な壺を発動してカードを2枚ドロー。八尺勾玉を装備。このカードは装備モンスターが手札に戻ること破壊されるとき手札に戻すことができる。そして装備モンスターが破壊したモンスターの攻撃力分のライフを回復する。そして阿修羅は相手の全てのモンスターの攻撃することができる。そしてビッグバン・シュートを装備。攻撃力を400ポイントあげて貫通効果を付与する。」

阿修羅 ATK 1700⇒2100

「バトル、まずはディフェンダーに攻撃、地獄の千手剣!!」

「くっ、ディフェンダーの効果で破壊を防ぎます。」

「だけど戦闘ダメージは受けてもらうわ。」

楓 LP 3300⇒2800

「次はサモンプリーストよ。」

「クッ・・・」

楓 LP 2800⇒2300

恵 LP 2400⇒3200

「最後にエンディミオンね。」

「うっ・・・」

楓 LP 2300⇒2100

恵 LP 3200⇒5100

「二気にライフの差が3000ポイントも・・・大丈夫かな。」

不安げになる楓に対し・・・

「よし、勝ってる・・・確実に押してる。このままいつてこの女を倒せば、爽児様は私のものに・・・」

こっちは熱く燃えていた。そう、恵は爽児のことが好きだった。恵

は爽児ファンクラブの副会長で爽児への愛なら誰にも引けをとらない（自称）と語るほどだ。自身の容姿も明らかにかわいい、の部類に入るスタイルもいい。

「私こそが爽児様にふさわしいのに、この娘は・・・」

しかし最近爽児と楓はよく一緒にいるのを見かける。周りには二人が付き合いだしたと言う人もいる。

「観客席には爽児様がいる。このデュエルに勝って爽児様に振り向いてもらう！！」

と熱い信念を持ってこのデュエルに望んでいる訳だ。勿論当の本人はそんなことまったく知らないのだが。

VS恵(前編)(後書き)

今回の最強カードは阿修羅!!

いつもどおり効果から行きますか。

スピリットモンスター

星4／光属性／天使族／攻1700／守1200

このカードは特殊召喚できない。

召喚・リバースしたターンのエンドフェイズ時に持ち主の手札に戻る。

このカードは相手フィールド上に存在する

全てのモンスターに1回ずつ攻撃をする事ができる。

(遊戯王カードwikiより)

スピリットモンスターの特徴としてエンドフェイズに手札に戻るデメリットがあるけど全体攻撃は非常に強力。相手にリクルーターや弱小トークンを潰しまくりましょう。光属性なのでオネストの恩恵も受けれるし、ビッグバン・シュートを用いたら大ダメージ確定な強力カードでした。

今回はVS恵戦の決着です。

それではさようなら

V S 恵（後編）（前書き）

こんにちは千です。

今回は恵との決着、そして小説初のオリカ登場です。

それではお楽しみ下さい。

V S 恵（後編）

「私はターンエンド、エンドフェイズに阿修羅と八尺勾玉は手札に戻るわ。」

勝ち誇った表情で恵はターン終了を宣言する。

恵

LP 5100

手札3枚

魔法・罨 2枚セット＋暗黒の扉

モンスター なし

楓

LP 2100

手札2枚

魔法・罨 2枚セット

モンスター 魔導騎士ディフェンダー ATK 1600

「今恵さんの手札は阿修羅、八尺勾玉、因幡之白兔の3枚。ディフェンダーにはもう魔力カウンターが残っていないし攻撃表示なら阿修羅に倒されてライフを回復されるし守備表示に変えたとしても因幡之白兔が直接攻撃をしてくる。どうすれば・・・」

「あなたのターンよ、早くドローして。」

「・・・あ、はいスイマセン。私のターン、ドロー。」

「何を考えてたのかしら。要注意ね。」

「私は強欲な壺を発動してカードを2枚ドロします。」

「こ、このカードは爽児君がくれたカード。よし、これで逆転してみせる。」

「私はマジカル・コンダクターを攻撃表示で召喚します。」

マジカル・コンダクター ATK 1700

「見たことないカード・・・」

「さらに私はテラ・フォーミングを発動します。デッキから魔法都市エンディミオンをサーチします。そしてマジカル・コンダクターの効果を発動します。お互いが魔法カードを発動するたびにこのカードに魔力カウンターを2つのせます。」

マジカル・コンダクター

魔力カウンター 0⇒2

「そして魔法都市エンディミオンを発動。更なるカウンターをコンダクターにのせます。」

マジカル・コンダクター

魔力カウンター 2⇒4

「私は魔法カードおろかな埋葬を発動し、デッキから神聖魔道王エンディミオンを墓地に送ります。そして新たなカウンターをのせます。」

魔法都市エンディミオン
魔力カウンター 0⇒1

マジカル・コンダクター
魔力カウンター 4⇒6

「そして私は罠カード漆黒のパワーストーンを発動します。このカードに魔力カウンターを3つのせます。そしてこのカードの魔力カウンターを1個取り除くことでマジカルコンダクターにカウンターを一つのせます。」

漆黒のパワーストーン
魔力カウンター 0⇒3⇒2

マジカル・コンダクター
魔力カウンター 6⇒7

「マジカル・コンダクターの効果を発動します。1ターンに1度このモンスターの魔力カウンターお全て取り除き、取り除いた魔力カウンターの数と同じレベルの魔法使い族モンスターを墓地から蘇生します。来て、神聖魔導王エンディミオン!!」

マジカル・コンダクター
魔力カウンター 7⇒0

神聖魔導王エンディミオン ATK 2700

「エンディミオンの効果を発動します。手札の二重召喚を墓地に送り恵さんの暗黒の門を破壊します。」

エンディミオンが放った魔力が暗黒の門を粉碎する。

「だけど私は威嚇する咆哮を発動するわ。このターンあなたは攻撃宣言することができない。」

「ターンエンドです。」

「まさか1ターンでここまでモンスターを展開するなんて・・・だけど負けないわ。」

「私のターン、ドロー。私は命削りの宝札でカードを5枚ドロー。私は阿修羅を召喚して八尺勾玉を装備。」

「このとき魔力カウンターがのります。」

魔法都市エンディミオン
魔力カウンター 1⇒2

マジカル・コンダクター
魔力カウンター 0⇒2

「そしてディフェンダーを攻撃。地獄の千手剣！」

「クッ。」

楓 LP 2100⇒2000

「八尺勾玉の効果でライフを回復。」

恵 LP 5100⇒6700

「さらにマジカル・コンダクターを攻撃、その瞬間に収縮を発動しマジカル・コンダクターの攻守を半分にするわ。」

「魔力カウンターがのります」

魔法都市エンディミオン

魔力カウンター 2⇒3

マジカル・コンダクター

魔力カウンター 2⇒4

「構わないわ、地獄の千手剣！」

マジカル・コンダクター ATK 1700⇒850

「ぎゃ・・・」

楓 LP 2000⇒1150

「そしてライフを回復。」

恵 LP 6700⇒8400

「魔法都市エンディミオンの効果を発動します。魔力カウンターが乗っているカードが破壊された場合、破壊されたカードに乗っていた魔力カウンターと同じ数の魔力カウンターをこのカードに置くことができます。」

魔法都市エンディミオン

魔力カウンター 3 ⇒ 7

「バトルフェイズを終了するわ。メインフェイズ2に強制転移を發動。私の阿修羅とあなたのエンデミオンのコントロールを入れ替えるわ。」

そう言い終えるとエンディミオンが恵の場に、阿修羅が楓の場に現われる。

魔法都市エンデミオン

魔力カウンター 7⇒8

「私はターンを終了する。このとき阿修羅と八尺勾玉は私の手札に戻ってくる。」

「くっ、私のターン、ドロー……」

「どうしよ、恵さんのライフは8000を越えちゃったし私のエン
 デイミオンは奪われちゃった。私のデッキにはモンスター除去カ
 ードは少ないし2700以上の攻撃力のモンスターだっていない。」

楓はチラッと観客席を見してみる。そこには応援の三沢、十代、そして爽児がいた。

[illegible]

「すごいな、完全なコントロール奪取だ。それにただでさえ場持ちが悪くて使いにくいスピリットモンスターをあんなに巧みに使いま

わすとは。」

「まったく同感だ。」

「あのデュエリストすげえな。」

上から爽児、三沢、十代だ。今は楓の応援をしてる。

「正直楓は圧倒的に不利だな。ライフ差が開きすぎてる上に切り札を奪われてるからな。さてここからどうやって逆転するかな？」

「ここが正念場だぞ、楓。頑張れよ!!」

俺は立ち上がって大声で叫んだ。十代がニヤニヤしてるが気にしない・・・

「ここが正念場だぞ、楓。頑張れよ!!」

「そうだ、私には応援してくれる人がいるんだ。諦めてちゃだめ、頑張らなきゃって、あれ？恵さんがすごい怒ってる。」

「ぐぬぬぬぬ・・・悔しい!!折角勝ってるのに爽児様に振り向いてもらえない上に、負けてるこの娘に応援ですって？うらやましますわ。」

「私は天よりの宝札を発動しカードを6枚になるようにドロ―しま

す。このとき魔法都市エンディミオンに更なるカウンターをのせま
す。」

魔法都市エンディミオン

魔力カウンター 8⇒9

「・・・恵さん、このデュエル私の勝ちです。」

堂々と勝利宣言する楓。

「・・・」

「私のセットカードはドレイン・シールド。勝てるものなら勝って
みなさい。」

「私は早すぎた埋葬を発動します。ライフを800ポイント払い墓
地のマジカル・コンダクターを蘇生します。ついでに魔法都市エン
ディミオンにもカウンターがのります。」

楓 LP 1150⇒350

マジカル・コンダクター ATK 1700

魔法都市エンディミオン

魔力カウンター 9⇒10

「また、魔力カウンター。そんなに貯めてどうするつもり？」

「こうするつもりです。私はメガトン魔導キャノンを発動します。
魔法都市エンディミオンの魔力カウンターを10個取り除き相手フ

イールド上のカードを全て破壊します。」

「な、何？」

魔法都市エンディミオンの魔力カウンターが一斉に砲台から発射され、恵のフィールドのカードを襲う。

「魔力カウンターをのせます。」

魔法都市エンディミオン

魔力カウンター 0⇒1

マジカル・コンダクター

魔力カウンター 0⇒2

「私は魔力掌握を発動します。魔法都市エンディミオンにカウンターをのせて新たな魔力掌握をサーチします。」

魔法都市エンディミオン

魔力カウンター 1⇒3

マジカルコンダクター

魔力カウンター 2⇒4

「さらに漆黒のパワーストーンの魔力カウンターをエンディミオンに移します。」

漆黒のパワーストーン

魔力カウンター 2⇒1

魔法都市エンディミオン
魔力カウンター 3⇒4

「私は手札から天使の施しを発動します。カードを3枚ドロ―し2枚捨てます。そして魔力カウンターをのせます。」

魔法都市エンディミオン
魔力カウンター 4⇒5

マジカル・コンダクター
魔力カウンター 4⇒6

「そしてわたしは2体目のクルセイダー・オブ・エンディミオンを召喚します。これですべてそろいました。」

クルセイダー・オブ・エンディミオン ATK 1900

すごいスピードでカウンターをのせていく楓に観客は言葉が出なかった。

「私は魔法都市エンディミオンの効果を発動します。1ターンに1度、自分フィールド上に存在する魔力カウンターを取り除いて自分のカードの効果を発動する場合、代わりにこのカードに乗っている魔力カウンターを取り除く事ができます。私はエンディミオンにのっているカウンターを全て取り除き墓地から魔法の操り人形を召喚します。」

魔法の操り人形 ATK 2000

「そして私は罠カード魔力集結を発動します。このカードは自分フ

イールド上の魔力カウンターをのせることができるカードを1枚選択し、選択したカードにのってる魔力カウンター以外の魔力カウンターを全て取り除きます。そのあと選択したカードに取り除いた魔力カウンターの数と同じ数魔力カウンターを洗濯したカードにのせます。私が選ぶのは魔法都市エンディミオン!!!」

フィールドの全ての魔力カウンターが魔法都市に集まっていく。

マジカル・コンダクター

魔力カウンター 6⇒0

漆黒のパワーストーン

魔力カウンター 1⇒0

魔法都市エンディミオン

魔力カウンター 0⇒7

漆黒のパワーストーンは破壊される。

「私は魔法都市エンディミオンにのってる魔力カウンターを6つ取り除き墓地から神聖魔導王エンディミオンを特殊召喚します。」

魔法都市エンディミオン

魔力カウンター 7⇒1

神聖魔導王エンディミオン ATK 2700

楓のフィールドに4体の魔法使いが並ぶ。

「この効果でエンディミオンを特殊召喚した場合墓地の魔法カード

を1枚手札に加えます。私は二重召喚を手札に加え、発動します。
クルセイダー・オブ・エンディミオンを再度召喚！効果モンスター
となったクルセイダーの効果で魔法都市エンディミオンに魔力カウ
ンターをのせ、このモンスターの攻撃力を600ポイントアップし
ます」

魔法都市エンディミオン

魔力カウンター 1⇒3

マジカル・コンダクター

魔力カウンター 0⇒2

魔法の操り人形

魔力カウンター 0⇒1

クルセイダー・オブ・エンディミオン ATK 1900⇒2500

「全員で一斉攻撃、マジック・ブラスト！！」

「きやあああ」

恵 LP 8400⇒0

V S 恵（後編）（後書き）

今回の最強カードは・・・マジカル・コンダクター！！
この話で楓のデッキを回したキーカードですね。
まずは効果から

効果モンスター

星4／地属性／魔法使い族／攻1700／守1400

自分または相手が魔法カードを発動する度に、

このカードに魔力カウンターを2つ置く。

このカードに乗っている魔力カウンターを任意の個数取り除く事で、
取り除いた数と同じレベルの魔法使い族モンスター1体を、
手札または自分の墓地から特殊召喚する。

この効果は1ターンに1度しか使用できない。

（遊戯王カードwikiより）

簡単に言うとこのカードにのつてる魔力カウンターを対象のレベル
分取り除いて手札及び墓地から魔法使い族モンスターを蘇生すると
いう強力なカードです。勿論魔法都市エンディミオンで肩代わりも
可能ですし、魔力カウンターを使うデッキならどれでも入ります。

今回は爽児の実技を書きます。果たして爽児の相手とは・・・？

さようなら

V S 三沢（前編）（前書き）

こんにちは、千です。

もうタイトルでネタバレになってるけど爽児の対戦相手は三沢です。
彼の新しいデッキを披露します。

それではどうぞ。

V S 三沢（前編）

「よくやったな楓！」

「えへへ、ありがとう爽児君。爽児君のおかげだよ。」

楓のデュエルが終わり、楓の相手は悔しそうに帰っていった。どうやら俺の応援（？）は楓に届いてたらしく、大きな助けになったらしい。

「爽児君も頑張ってたね。」

「ああ任せろ！」

といっても俺の相手はちょっと厳しいんだけどな・・・

『次はデュエル場12で三沢大地君と黒鉄爽児君のデュエルを行います。両者は至急デュエル場12に来るように。』

さっきアナウンスがあったばかりだ。

「じゃあ楓行ってくる。」

「うん、私も後で応援に行くよ。」

――――

「まさかこんな形で受験の日の約束が叶うとはな。」

今俺は三沢と対峙してる。

「三沢、俺対策のデッキはできたのか？」

「ああ、俺の第7のデッキでお前を倒してみせる。」

ちなみにアニメでの第7のデッキは十代対策だったけどあれはノース校とのデュエルの代表決定戦だから月1試験の方が時間軸的に早い。だから十代対策は第8のデッキになるんだな。

「「決闘」」

三沢 LP 4000

爽児 LP 4000

「俺のターン、ドロー。俺はオキシゲドンを攻撃表示で召喚。」

三沢のフィールドに青緑色の竜が現われる。一応恐竜族だぞ、こいつ・・・

オキシゲドン ATK 1800

「オキシゲドンってことはウォーター・ドラゴンデッキってことか？」

「俺はカードを1枚セットしてターン終了だ。」

「俺のターン、ドロ。来い、ゴーレム・ドラゴン」

ゴーレム・ドラゴン DEF 2000

「カードを2枚セットしてターンエンドだ。」

{さて、どうくる?}

「俺のターン、俺は魔法カード二重召喚を発動する。このターン俺は二回通常召喚が可能となる。俺はハイドロゲドンとプロミネンス・ドラゴンを召喚。」

ハイドロゲドン ATK 1600

プロミネンス・ドラゴン ATK 1500

「俺は魔法カードエクスプロージョン・エクスペリメントを発動する。フィールドのハイドロゲドン、オキシゲドン、炎属性炎族モンスターを生贄にささげ手札、デッキ、墓地からファイヤー・ドラゴンを特殊召喚する。」

ファイヤー・ドラゴン ATK 2800

{見たことないモンスターだな・・・}

爽児はOPをあまり見ない派だったのでこのモンスターの存在を知らない。

「バトル、ファイヤー・ドラゴンでゴーレム・ドラゴンを攻撃、フレイム・パニッシャー!」

「俺は罨カードくず鉄のかかしを発動。相手モンスターの攻撃を無効にし再びこのカードをセットする。」

「く、俺はターンを終了する。」

「俺のターン、俺はランス・リンドブルムを攻撃表示で召喚。ターンエンドだ。」

ランス・リンドブルム ATK 1700

「俺のターン、ドロー、俺はこの瞬間ファイヤー・ドラゴンの効果を発動。俺は手札の炎属性・炎族モンスターを墓地に送ることで相手フィールド上にセットされた罨カードを破壊する。パイロ・ボム！！」

ファイヤー・ドラゴンが口から放った炎の玉がくず鉄のかかしを破壊する。

「バトル、俺はファイヤー・ドラゴンでゴーレム・ドラゴンを攻撃、フレイム・パニッシャー！言い忘れてたがファイヤー・ドラゴンには貫通効果があるからな。」

「くっ、」

爽児 LP 4000⇒3200

「ターン終了だ。」

「なるほど貫通効果を持った高攻撃力モンスターで殴る作戦か。罨

カードを破壊する効果は結構厄介だな。俺が上級モンスターを召喚する前に終わらす気か。」

「俺のターン、ドロー。俺は神竜アポカリプスを守備表示で召喚。」

神竜アポカリプス DEF 1500

「俺は神竜アポカリプスの効果を発動、手札を1枚捨て、墓地のゴーレム・ドラゴンを手札に加える。そして俺はドラゴニック・タクティクスを発動する。」

「この瞬間を待っていた。俺は罠カード虚無空間を発動、お互いはあらゆる特殊召喚ができなくなる。」

「何だと!!」

「よってドラゴニック・タクティクスは不発となる。」

|||||
|||||

回想

三沢 in 自室

「ライトエンド・ドラゴン、ダークエンド・ドラゴン、光と闇の竜。様々なモンスターを一瞬で召喚し、上級モンスターを召喚しビートダウンを行う。特に厄介なのは魔法カードドラゴニック・タクティクスとミンゲイ・ドラゴン。前者はデッキに眠る上級モンスターを召喚する。爽児にとってドラゴン族モンスターを2体並べるのは容

易だからな。後者はいつの間にか墓地に送られ、特殊召喚ができない光と闇の竜の布石となる。さらに爽児には万能攻撃妨害のくず鉄のかかしやガード・ブロック、威嚇する咆哮など厄介な罠が多い。」

三沢は今自室で爽児対策の第7のデッキを創作している最中だ。

「王宮の弾圧でも入れるか？ だけどあのカードはライフコストを要するから実質4回しか発動できない。たった4回特殊召喚を抑えたところで爽児に勝てるか？ ならライフ回復カードを入れる・・・いやそうするとデッキが受動的すぎる。それに罠カードの対策をしなければ。サイクロンも入れるか、いや威嚇する咆哮はフリーチェイン、無駄だ。・・・ん、待てよ。このカードとこのカードなら・・・ブツブツ」

回想終了

――――
――――
――――

「そう、虚無空間なら完全にライフコストなしで相手の特殊召喚を無効にできる。破壊デメリットが痛いがファイヤー・ドラゴンが爽児の下級モンスターに破壊されることはない。あいつのデッキには除去カードは少ないはず。ファイヤー・ドラゴンで罠カードを破壊して貫通効果でダメージを与えていけば勝てる。俺の勝率は99%」

「ちっ、ターンエンドだ。」

「ふん、成す術がないか？ 俺のターン、ドロー。俺はファイヤー・

ドラゴンの効果で伏せカードを破壊、パイロ・ボム！」

「俺はチェーン発動で威嚇する「残念だがファイヤー・ドラゴンの効果発動に罠カードはチェーン出来ない！」・・・くそ。」

爽児の威嚇する咆哮が効果を発動する間も無く炎に包まれる。

「神竜アポカリプスに攻撃、ファイヤー・パニッシャー！！」

「うっ・・・」

爽児 LP 3200⇒1900

「ターンエンドだ。俺は徹底的にお前のデッキを調べ上げた。お前に勝ち目はない！！」

VS三沢（前編）（後書き）

今回の最強カードはファイヤー・ドラゴン。

最強カードシリーズ初のオリカです。外見は遊戯王GXの第1OPの三沢のシーンで三沢の右にいる炎の竜だと思ってください。では効果から

効果モンスター

星8／炎属性／炎族／攻2800／守2600

このカードは通常召喚できない。

「エクスペリジョン・エクスペリメント」の効果でのみ特殊召喚することができる。1ターンに1度、手札の炎属性・炎族モンスターを墓地に送ることで相手フィールド上にセットされている魔法・罠カード1枚を破壊する事ができる。この効果の発動に対して魔法・罠カードを発動する事はできない。このモンスターがこのカードが守備表示モンスターを攻撃した時、その守備力を攻撃力が超えていれば、その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

「エクスペリジョン・エクスペリメント」は自分フィールド上の「オキシゲドン」、「ハイドロゲドン」と炎属性・炎族モンスターを墓地に送りファイヤー・ドラゴンを特殊召喚する魔法カードです。効果は前者はコスト付きの「神炎皇ウリア」後者は貫通効果です。この二つの効果はシナジーしてて

相手の厄介な罠を破壊⇒高攻撃力でダメージを与えるという動作が可能です。とても攻撃的な効果ですが「エクスペリジョン・エクスペリメント」のディスアドバンテージが激しい上に類似召喚方法の「ウォーター・ドラゴン」と違い、たとえ破壊されても損失が取り戻せる訳ではないのでカード破壊に弱いです。

特殊召喚を封じられて成す術のない爽児、果たして逆転できるのか？

お楽しみに！

V S 三沢（後編）（前書き）

こんにちは千です。

「もう一人の英雄」は読者様の質問・コメント・アドバイス・リクエスト（○○に××のカードを使って欲しい、○○と△△のデュエルが見たい等）を募集しています。何かあったら気軽に言ってください。

ではどうぞ

VS三沢（後編）

「俺は徹底的にお前のデッキを調べ上げた。お前に勝ち目はない！」

「クッ・・・」

三沢

LP 4000

手札1枚

魔法・罠 虚無空間

モンスター ファイヤー・ドラゴン ATK 2800

爽児

LP 1900

魔法・罠 なし

モンスター ランス・リンドブルム ATK 1700

「ねえ、明日香さん。爽児君はどう？」

楓は今爽児と三沢のデュエルが行われているデュエル場12に着いたばかりだった。前からいた明日香に話を聞くと早々に貫通効果持ちの切り札、ファイヤー・ドラゴンで場を制圧する三沢に対し特殊召喚を封じられ自慢の高速召喚が出来ない爽児。誰が見ても三沢が有利だ。

「普通のデュエリストならここからの逆転は厳しいわね。」

「でも爽児君なら・・・」

ールド上にレベル7以上のモンスターが

表側表示で存在する場合のみ発動する事ができる。相手フィールド上に表側表示で存在するレベル5以下のモンスターを全て破壊する。

」

ファイヤー・ドラゴンが氷を破壊し、炎の玉を2体の竜に飛ばす。

「残念だったな。生贄は残させないぞ。このカードを発動するターン、自分は攻撃できない。最もブリザード・ドラゴンで攻撃は封じられてるがな。ターンエンド。」

「俺の戦術が先読みされてる。このままじゃ俺のライフが持たない。

」

「俺のターン、ドロー……。三沢、勝利の女神は俺を見放さなかったようだぜ。俺は永続魔法一族の結束を発動。このカードは自分の墓地に存在するモンスターの元々の種族が1種類のみの場合、自分フィールド上に表側表示で存在するその種族のモンスターの攻撃力は800ポイントアップする魔法カード。そして俺はアックス・ドラゴニュートを攻撃表示で召喚！」

アックス・ドラゴニュート ATK 2000

「一族の結束でパワーアップ!!」

アックス・ドラゴニュート ATK 2000⇒2800

「何、ファイヤー・ドラゴンと攻撃力が並んだだど!?!」

「バトル、アックス・ドラゴニュートでファイヤー・ドラゴンを攻

撃！」

「く、迎え撃てファイヤー・ドラゴン！」

二体のモンスターが激突し、お互い爆発する。

「お前のフィールドのカードが破壊されたことにより、虚無空間には消えてもらう。」

「くそっ、」

「カードを2枚セットしてターンエンドだ！」

「すごい、爽児君・・・」

たった1ターン前は自分が圧倒的に不利だったのに今は互角、いやアドバンテージで言えば爽児君の圧倒的有利。

「さすが爽児ね。虚無空間のデメリットを容赦なく利用した。これで勝負の行方は分からなくなってきた。」

「頑張れ、爽児君。」

自分でも信じられない大きさの声で私はいつの間にか応援してた。爽児君がこっち向いて「任せろ」と言ったのは気のせいではないだろう。

「おそらく神竜アポカリプスのコストで捨てたものだろう。または天使の施しか？」

「ライトパルサー・ドラゴンを召喚。一族の結束でパワーアップ。」

ライトパルサー・ドラゴン ATK 2500⇒3300

「そして混沌空間の効果を発動。モンスターがゲームから除外されるたびに1体につきこのカードにカオスカウンターを1個のせる。」

混沌空間

カオスカウンター 0⇒2

「俺は魔法カードスペシャル・ドロローを発動。自分フィールドの特殊召喚されたモンスター1体を墓地に送りカードを1枚ドロローする。俺はライトパルサーを墓地に送る。その瞬間にライトパルサーの効果が発動。このカードがフィールド上から墓地へ送られた時、自分の墓地のドラゴン族・闇属性・レベル5以上のモンスター1体を選択して特殊召喚できる。来いダークエンド・ドラゴン。」

ダークエンド・ドラゴン ATK 2600⇒3400

「さらに俺は墓地のライトパルサーと神竜アポカリプスをゲームから除外しダークフレア・ドラゴンを召喚。」

ダークフレア・ドラゴン ATK 2400⇒3200

混沌空間

カオスカウンター 2⇒4

「ダークフレアの効果発動。手札とデッキのドラゴンを墓地に送り、墓地のカードを除外。俺は手札からゴーレム・ドラゴン、デッキからライトエンド・ドラゴンを墓地に送る。そしてそのままライトエンドをゲームから除外。」

混沌空間

カオスカウンター 4⇒5

「混沌空間の効果発動。1ターンに1度、自分フィールド上のカオスカウンターを4つ以上取り除く事で、取り除いた数と同じレベルを持つ、ゲームから除外されているモンスター1体を選択し、自分フィールド上に特殊召喚する。俺は5つのカウンターを取り除き、除外されているライトパルサーを復活させる。」

ライトパルサー・ドラゴン ATK 2500⇒3300

爽児得意の上級ドラゴンの連続召喚が行われる。

「ダークエンドの効果を発動、逆巻く炎の精霊を墓地へ、ダーク・イヴァポレイション!!」

ダークエンド・ドラゴン ATK 3400⇒2900

「俺は重力の網ーグラビティ・バインドを発動。これでお前のモンスターは攻撃できない。」

「どうかな？俺はカウンター罫竜の咆哮を発動、自分のレベル7以上のドラゴンを生贄にささげ相手の魔法・罫・モンスター効果は無効にしては破壊する。」

「なにっ!？」

「俺はバトルフェイズを続行、ダークフレアとライトパルサーでダイレクトアタック!ダーク・バーニング、ホーリー・ブレス!!!!」

「ふ、俺の負けか。」

三沢 LP 4000⇒0

|-----|

「楽しいデュエルだったぜ、三沢。またいつかやろうぜ。」

「うん、今日のデータを参考に次は絶対勝てる第8のデッキを作ってみるよ。」

「楽しみにしてるぜ。」

そういい残し、俺は観客席へ向かった。

「おつかれ、爽児君。」

「ああ、応援ありがとな。」

「「.....」」

「.....ん、俺勝者報告行ってくる。またな。」

「・・・う、うん。」

「ねえ、楓？」

そういえば明日香さんいたんだっけ。

「あなた・・・爽児のことが好きでしょ。」

急に恥ずかしくなって楓は下を向く。そして小さく頷いた。

「ふーん、前からそうだと思ってたけどやっぱりそうなんだ。よし、私が協力してあげるわ。」

「協力？」

「そうよ、告白の協力。」

「ここに、告白!？」

「うん、あなたの思いを爽児に伝えるのよ。見た感じ爽児もまんざらでもないみたいだし。あなたの部屋で作戦会議しましょう。あとジュンコとモモエも呼んで・・・」

「うう、勝手に話が進んで・・・。アニメではそんな感じしなかったけどやっぱり明日香さんも普通の高校生の女子なんだなこういうところは。告白かぁ・・・」

この日を始めて楓の告白作戦会議が開始されているのを爽児は知るはずもなかった。

V S三沢（後編）（後書き）

今日の最強カードはライトパルサー・ドラゴン。新ストラクチャーデッキドラゴニック・レギオンの看板モンスター。この小説では爽児の準・切り札的な扱いです。まずは効果から

効果モンスター

星6／光属性／ドラゴン族／攻2500／守1500

このカードは自分の墓地の光属性と闇属性のモンスターを1体ずつゲームから除外し、手札から特殊召喚できる。

また、手札の光属性と闇属性のモンスターを1体ずつ墓地へ送り、このカードを自分の墓地から特殊召喚できる。

このカードがフィールド上から墓地へ送られた時、自分の墓地のドラゴン族・闇属性・レベル5以上のモンスター1体を選択して特殊召喚できる。

（遊戯王カードwikiより）

手札・墓地からそれぞれ特殊召喚できる効果は非常に便利。デッキ構築の際は光と闇の墓地肥やしが出来るデッキにしましょう。蘇生効果も協力で同ストラクチャーデッキ収録のレッドアイズ・ダークメタル・ドラゴンとはお互いを蘇生できる関係にあります。攻撃力も高いので大量展開して一気に攻めましょう。

尚前書きの通りこの小説は読者様の声を募集しています。あまりにも無理すぎるものとはともかく出来る限り皆様の意見を採用していくつもりなのでよろしくお願いします。

V S 闇の決闘者（前書き）

こんにちは千です。

今回はタイトルどおり闇の決闘者とのデュエル。

タイタンではなく使うデッキはチェスデーモンではない。

いつもとはまったく違うデュエルに爽児はどうするのか？

それでは、どうぞ

V S 闇の決闘者

「ふあああ、・・・暇だな・・・」

おっす。爽快だ。見れば分かるだろうが今は暇をもてあましてる。

〔散歩でも行くか・・・3回目だけど・・・〕

何で今日はこんなに暇かというと十代たちは補習授業でいないし、楓は明日香と約束してるらしいし（何か恥ずかしそうだったけど何だったんだろう？）三沢は月1試験以来「新しいデッキの研究をするんだ！！！」とか言ってる部屋から出てこないし。前までちょっと遊んでた他のブルーの生徒は前の試験で降格になったし。あつ、そういえば前の筆記テスト満点だったぜ。また目立っちゃったけど。とまあこんな感じで最初は「たまにはこんな平和な日もいいな」とか思ってたのに暇すぎて死にそうだ。

「ふあああ、・・・暇だな・・・」

今日言ったの何回目分からないなこの台詞。ぼんやりした気分でブルー寮の外に出ると

「ふふふふ、見つけたぞ黒鉄爽快。」

〔なんだこのおっさん？全身黒ずくめでグラサンかけてやがる。この時期って何かイベントあったっけな？〕

俺が記憶の中で模索してるとすぐに答えが分かった。いつの間にか周りに黒い霧のようなものが俺達を囲った。そうか・・・

「これは闇のデュエルか……。」

「よく知ってるな。なら説明は省こう。さあ、デュエルディスクを構えろ。」

思いがけない形で暇つぶしになったな。

「決闘!!」

闇の決闘者 LP 4000

爽児 LP 4000

「先攻は私だ。ドロ。私は手札抹殺を発動。お互いのプレイヤーは手札を全て捨て、捨てた枚数分デッキからカードをドロする。私はインヴェルズの魔細胞を手札から特殊召喚。」

インヴェルズの魔細胞 DEF 0

「インヴェルズだと!? あれは……」

「現世でのカード……と言いたいのか? ふふふ、私も貴様と同じ転生者。私は魂を闇に売り、この世界の神となる。私はインヴェルズの魔細胞を生贄にインヴェルズ・フライを生贄召喚。」

インヴェルズ・フライ ATK 2300

「俺はDUEL TERMINALのカードにあまり詳しくないけどそんなカードあったか?」

「インヴェルズ・フライの効果を発動。インヴェルズと名のついたモンスターを生贄に召喚したこのモンスターは1000ポイント払うことで相手の手札を確認し、その中から1枚捨てる事が出来る。」

「ピーピングにハンデスカよ。」

爽児は手札を公開する。ドラゴニック・タクティクス、ライトパルサー・ドラゴン、エクリプス・ワイバーン、ミンゲイドラゴン、竜の魔眼の5枚だ。

「私はドラゴニック・タクティクスを墓地へ。」

インヴェルズ・フライが爽児の元に飛んでいきカードを叩き落とす。

「私はカードを1枚セットしターン終了だ。」

「俺のターン、俺はミンゲイドラゴンを守備表示で召喚。」

ミンゲイドラゴン DEF 400

「俺は竜の魔眼を発動。伏せカードを破壊！」

「ふん、所詮は子供。さっき手札を見たばかりなのにそう易々と破壊させるわけないでしょう。私は速攻魔法侵略の一手を発動します。インヴェルズ・フライを手札に戻しカードを1枚ドロ。」

「カードを1枚セットしターンエンド。」

「ふふふ、ドロー。私は墓地のインヴェルズの斥候の効果を発動します。自分のフィールドに魔法・罠が無い時このカードは墓地から蘇る。」

インヴェルズの斥候 DEF 0

「そして私はインヴェルズの斥候を生贄にインヴェルズ・モースを生贄召喚。」

インヴェルズ・モース ATK 2400

「インヴェルズと名のついたモンスターを生贄に生贄召喚されたインヴェルズ・モースの効果発動。1000ポイントライフを払い、相手フィールドのカードを2枚手札に戻す。」

闇の決闘者 LP 3000⇒2000

インヴェルズ・モースが突風を放ち、ミンゲイドラゴンと伏せカードを手札に戻す。

「ふふふ、ダイレクトアタック。」

「ぐはあ」

爽児 LP 4000⇒1600

{何だこの尋常じゃない痛みは・・・}

「ふふふ、こらえないほうがいいですよ。闇のデュエルにおいてライフポイントは命そのもの。あなたは今の一撃で命の半分以上を削

られた。」

「くそ、想像以上だ・・・よくアニメでは皆耐えてるな・・・」

「ターンエンドです。最もあなたがターンを開始できるかどうかは疑問ですがね。」

「馬鹿言え。俺のターン、ドロー！俺はミンゲイを再び召喚。」

ミンゲイドラゴン DEF 400

「カードを2枚セットし、ターン・・・エンドだ・・・ハアハア。」

「やべえ、視界も歪んできたし、立ってられねえ。」

「ふふふ、もう限界ですか？私のターン、・・・一応聞いて置きましようか。降参しますか？降参だったらせめて楽に死ねますよ。」

「ふざけるなよ。そんなもん・・・誰が・・・」

「ふふふ、そうですか。ではその心意気を砕いて差し上げましょう。私は手札から大寒波を発動します。よってお互いは魔法・罠が発動できない。」

爽児のフィールドの伏せカードが凍りつく。

「さらに私はインヴェルズ・モースを生贄にささげインヴェルズ・マデイスを生贄召喚。」

インヴェルズ・マデイス ATK 2200

「インヴェルズ・マデイスの効果を発動。ライフを1000払い墓地のインヴェルズと名のつくモンスター1体を蘇生します。蘇れインヴェルズ・モース。」

闇の決闘者 LP 2000⇒1000

インヴェルズ・モース ATK 2400

「インヴェルズ・モースでミンゲイドラゴンを破壊。」

「クソッ！」

「ふふふ、終わりです。インヴェルズ・マデイスでダイレクトアタック。」

「ウワァァァ」

爽児 LP 1600⇒0

爽児は闇の中で倒れ、意識を失う。本来ならばここで命を失うはずだが……

「……これは偽りの闇。ダメージこそ本物だが命までは奪いはしない。黒鉄爽児……所詮この程度でしたか。この程度では本当の『闇』の中で生き残れませんよ。」

そう言い残し謎のデュエリストは闇の中に消えていった。

――――――――――

――――

「・・・じ・・・爽児!!・・・おい、爽児!!!!」

ん、ここはどこだ。俺は確か・・・

「ったく、爽児どうしたんだ？こんなところで寝てたら風邪引くぞ。」

「ここは・・・ブルー寮か？」

「当たり前だろ、他にこんなでっかい建物あるかよ？どうしたんだよ、お前？」

適当にごまかして俺は十代と分かれた。夢だったのか？いや、違う。夢にしては鮮明すぎだし、痛みがまだ残ってる。それに何より俺のデュエルディスクにセットされてたカード、くず鉄のかかしとドラゴン・エヴォリュションは俺があのだデュエリストに封じられたカード。あいつは見逃してくれたってことか？いいや、それとも・・・。

試行錯誤しても何も思いつかず、予想以上にダメージを負ってた爽児は部屋に戻ると吸い込まれるようにベッドに横になった。

VS 闇の決闘者（後書き）

今日の最強カードはインヴェルズの斥候。
まずは効果から見てみましょう。

効果モンスター

星1／闇属性／悪魔族／攻 2000／守 0

自分フィールド上に魔法・罠カードが存在しない場合、

自分のメインフェイズ1の開始時にのみ発動する事ができる。

墓地に存在するこのカードを自分フィールド上に特殊召喚する。

この効果を発動するターン、自分はモンスターを特殊召喚する事はできない。

このカードは「インヴェルズ」と名のついたモンスターの

アドバンス召喚以外のためにはリリースできず、シンクロ素材とする事もできない。

（遊戯王カードwikiより）

低ステータス、恵まれた種族を持つこのカードは制約付の黄泉ガエルの的なものです。実質インヴェルズ以外に使用方法がないですけど、毎ターンの生贄確保は非常に優秀でインヴェルズを組むなら間違いなく必須カードです。しかし蘇生したターンは特殊召喚ができないのでインヴェルズ・マデイスとの相性は悪いので注意。

さて初の闇のデュエルで心身共々傷だらけになってしまった爽児。
デュエルが怖くなった爽児の前に意外な人物が・・・

V S 学園最強の男（前編）（前書き）

こんにちは、千です。

今回は挫けた爽児が立ち直る回です。そのきっかけとなるのは・・・

それではどうぞ

V S 学園最強の男（前編）

「インヴェルズ・マデイスでダイレクトアタック！！」

「ぐわああああああ」

「あああ、・・・・ハアハア、・・・・またこの夢か。」

俺は闇のデュエルの一件以来ずっとあの日のことを夢で見てる。
それだけ人生初の文字通り『命懸け』のデュエルが印象深かったことだろう。
しかしこのデュエルが与えた影響はそれだけではなかった。

「なあ、爽児、デュエルしようぜ。」

「悪い、ちょっと今日は無理なんだ。」

「爽児君、デュエルしてくれる？」

「ゴメン。またいつかな。」

このように爽児は無意識の内にデュエルが怖くなっていたのだ。
よって爽児は今までは快く受けてたったデュエルは次々と断っていたのだった。

こんな状況は1週間も続き、彼はひたすらデュエルを避け続け、逃げていた。

「いつまで俺はこんなことをするんだ！分かってるのに、デュエルデイスクを構えることが怖い。」

何もすることがないから部屋に戻ろうとすると1通の手紙がドアの下に置いてあった。

「今日の21時に灯台に来い。」

たったそれだけのことが書いてあるだけだった。

「またデュエルの誘いか？十代たちにしては結構回りくどいな・・・」
本来デュエルから逃げたい爽児はこのような誘いには乗らないはずだが、不思議と誰が待ってるのかが気になり灯台に向かうことに決意した。

「どうせデュエルだったら無理だって断ればいいしな。・・・けど一応デッキは持ってたか。」

本当にデュエルする気がないならデッキを置いとけばいいものも、不思議と爽児は無意識にデッキをポケットにしまった。

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

回想く2日前く

「最近爽児君の様子がおかしいの。」

今楓はKKK（Kー楓の Kー告白を Kー必ず成功させ隊）のミ  
ーティング中だ。

場所は楓の部屋でメンバーは明日香、ジュンコ、モモエと楓だ。

「確かに最近の爽児はデュエルを避けてる気がするわ。実技なんて本来なら十代並にテンションが高いはずなのに、最近は理由を付けて見学ばっかだし。」

全員頷く。やはり爽児の不可解の行動はちゃんと見られてたのである。

「どうすれば前みたいに楽しそうにデュエルする爽児君が見れるんだろう？」

「楓さん、そもそも何で爽児様はデュエルを避けるようになったのでしょうか？」

「モモエさん、よく分からないの。いつの間にかあんな感じで……」

皆「うーん」と唸り声をあげ必死に原因を模索するものも、まったく思い浮かばない。

それはそうだろう。「命懸けのデュエルをして負けてデュエルする気がなくなった。」なんて誰が予測できるのか。

「でも爽児もデュエリスト。もしすごい強いデュエリストを目のあたりにしたら奮い立つんじゃないの？」

「でも明日香ちゃん、」

最近このKKKで仲が深まったせいか、楓は明日香のことを明日香『さん』ではなく明日香『ちゃん』と呼ぶようになった。

「十代君だって爽児君に勝てないんだよ。そう簡単に爽児君よりも強いデュエリストを呼んでこれるの？」

もっともな質問だ。基本的にとんでもない実力を持つ爽児にはもはや学園に敵と呼べる物自体が少ない。モモエとジュンコも頷く。

「その点に関しては大丈夫。私に任せて。いい当てがあるから。そこでどうやって爽児を呼び出すかなんだけど・・・」

その内容は簡単で置手紙で指定の場所へ行かせるという古典的な作戦だった。

しかしちゃんとした裏付けがあり明日香曰く「もしPDAで呼び出したらデュエルの誘いだと分かってこないかもしれない。だけど手紙だったら誰が差し出したかわからないから興味が出てちゃんと行く。爽児ならば一応デュエルディスクぐらいなら持って来るでしょう。」らしい。

しかし明日香の当てのデュエリストは2日後しか空いてなくて、仕方なく決行は明後日にした。

そして楓たちは計画通りに実行し、約束の場所である灯台へ先回りした。

回想終了

――――

「・・・あ、あれ爽児君じゃない？」

こんにちは、楓です。今私は明日香ちゃんと爽児君の元気を取り戻

すためにある作戦をしてる。

だけど緊張しますよ。だって明日香ちゃんが呼んだデュエリストってとんでもない人ですから。

予定では少し後の登場になりますけど。

「これはどういうことだ、楓？」

今灯台には私と爽児君の二人しかいません。

「はつきりいますよ。最近の爽児君はデュエルから逃げてませんか？」

「!!」

「何かあったんですか・・・いや、何かあったんでしょう。別に私も何かは聞きませんが私は爽児君に元気を出して欲しいんです。前みたいに笑いながらデュエルする爽児君が見たいんです。」

涙声になって訴える楓に対したただ呆然と立ってるだけの爽児。

「・・・」

「だから余計なお世話だと分かってても爽児君に元気を取り戻してもらうために、爽児君にはデュエルしてもらいます。」

「・・・楓とか？」

「いいえ、違います。相手は「俺だ!!」・・・来ましたね。」

そこに威風堂々と立つのは学園最強でカイザーと呼ばれる男、丸藤

亮だった。

「お前が噂に聞く最強の1年、黒鉄爽児か。」

「最強かどうかなんてしらねえけどな・・・」

「まあ、何でもいい。俺は今1人のデュエリストとしてお前にデュエルを申し込む。どうだ、黒鉄爽児、俺とデュエルしないか？」

「俺は・・・」

「いつまで逃げるんだ？回りにこんだけ迷惑かけて・・・」

「あんたとのデュエル・・・受けて立つ！！」

「ふん、そうか。よし俺のサイバー流の力を見せてやろう。」

「「決闘」」

丸藤亮   LP   4000

黒鉄爽児   LP   4000

「よかった。爽児君がちよっと元気になった。」

「俺のターン、ドロー。俺は魔法カードタイムカプセルを発動。デッキのカードを選択し、裏側表示で除外。2ターン後にそのカードを手札に加える。俺はサイバー・フェニックスを守備表示で召喚。」

サイバー・フェニックス   DEF   1600

「カードを2枚セットしターンエンドだ。」

「俺のターン、俺はゴーレム・ドラゴンを守備表示で召喚する。」

ゴーレム・ドラゴン    DEF    2000

「ターン終了だ。」

「えっ？いつもなら一気に上級モンスターを展開か、伏せカードを伏せるのに・・・」

今私は灯台から離れて灯台がぎりぎり見えるところまで移動した。

「それで終わりか？俺のターン、俺は魔法カードニュータイプ・テクノロジーを発動。フィールド上の機械族モンスターを生贄にささげ、通常召喚の権利を放棄する代わりにそのモンスターのレベル＋1のレベルを持つ機械族モンスターを2体まで特殊召喚。来い、サイバー・ドラゴン！！」

サイバー・ドラゴン    ATK    2100×2

「サイバー・ドラゴンで攻撃、エヴォリユーション・バースト！」

「くっ、」

「ダイレクトアタックだ、エヴォリユーション・バースト！」

「うわあああ」

爽児 LP 4000⇒1900

「黒鉄爽児、」

「爽児でいい。」

「そうか爽児。お前は何を迷っているんだ？俺はお前が三沢とやったデュエルを見せてもらった。お前はあの時は絶体絶命の窮地から一気に逆転し勝利した。あの時のデュエルに対する熱意が今のお前には感じられない。」

「・・・」

「何に挫折したのかは知らないが、負けたら苦しい。誰だってそうだ。しかしその苦痛を乗り越えて始めて人は成長するんだ。挫けたからなんだ、負けたからなんだ、苦しいからなんだ。どんな逆境でも跳ね返して見せろ！！」

「そうだ、俺はずっと逃げてたんだ。デュエルからじゃない、負ける苦しみからだ。すだ、いいじゃねえか、あの時の闇の決闘は負けたけど、次は勝てばいい。もっともっと強くなって、皆を守るほど強くなればいいんだ。」

「・・・カイザー、感謝するぜ。あんたのおかげで目が覚めた。」

「感謝するなら楓さんに感謝するんだな。彼女はずっとお前のことを気にかけてた。心配させた分ちゃんと謝って礼を言うんだな。」

「ああ、分かった。」

「俺はターンエンドだ。見せてみる、お前のデュエル!!!」

「言われなくてもそのつもりだ!俺のターン、ドロー!!!俺はバイス・ドラゴンを手札から特殊召喚。このモンスターは相手フィールド上にのみモンスターが存在する場合、手札から攻守を半分にして特殊召喚できる。」

バイス・ドラゴン     DEF     1200

「効果だけだったらサイバー・ドラゴンの下位互換。だが、闇属性にドラゴン族と恵まれたステータスを持ってるな。」

「俺はミンゲイドラゴンを召喚。」

ミンゲイドラゴン     DEF     400

「俺は魔法カード、ドラゴニック・タクティクスを発動。俺のフィールドの2体の竜を墓地に俺の切り札、ライトエンド・ドラゴンを特殊召喚!!!来いライトエンド!!!!」

ライトエンド・ドラゴン     ATK     2600

「カイザー、見せてやるよ、俺の全力を!」



## V S 学園最強の男（前編）（後書き）

今回はいつもよりちょっと短いかな？

今回の最強カードは「サイバー・ドラゴン」

効果モンスター

星5／光属性／機械族／攻2100／守1600

相手フィールド上にモンスターが存在し、

自分フィールド上にモンスターが存在しない場合、

このカードは手札から特殊召喚できる。

（遊戯王カードwikiより）

光属性・機械族と恵まれたステータスをもち、半上級モンスターながらも容易な召喚条件を持ち、環境に大きく影響を与えたのがこの「サイバー・ドラゴン」。このモンスターの融合体としてサイバー・ツインやエンド、キメラテック・オーバーやフォートレスなど、さらに自身の名前を「サイバー・ドラゴン」として扱うプロト・サイバーやツヴァイなど多種多様なサポートカードがあるカードです。機械族なので「リミッター解除」などに対応し、融合体は「パワー・ボンド」に対応するパワーカードです。

次回、爽児VSカイザー

真の学園最強の王者は誰だ？

それでは次回をお楽しみに

## **V S 学園最強の男（後編）（前書き）**

こんにちは千です

意外とあっさり立ち直っちゃいましたね爽児・・・  
立ち直って全開の爽児に学校の頂点はどう戦うのか？  
そして勝利の女神はどっちに微笑む？

どうぞ、お楽しみください

## V S 学園最強の男（後編）

「俺はライトエンド・ドラゴンでサイバー・ドラゴンを攻撃、そしてその瞬間ライトエンドの効果発動。このモンスターと相手モンスターの攻撃力を下げる。ライト・イクスパンション！！ライトエンドの攻撃、シャイニングサプリメーション！！」

ライトエンド・ドラゴン    ATK    2600⇒2100

サイバー・ドラゴン    ATK    2100⇒600

ライトエンド・ドラゴンの光線がサイバー・ドラゴンを弱体化させ、消滅する。

丸藤亮    LP    4000⇒2500

「さらに俺は速攻魔法無限追撃を発動。自分フィールドのモンスターが相手モンスターを戦闘で破壊した時、もう一度攻撃することが出来る。2体目のサイバー・ドラゴンに攻撃、ライト・イクスパンション！！シャイニングサプリメーション！！」

ライトエンド・ドラゴン    ATK    2100⇒1600

サイバー・ドラゴン    ATK    2100⇒600

「クッ！」

丸藤亮    LP    2500⇒1500

「カードを1枚セットしてターンエンドだ!!」

爽児

LP 1900

手札 1枚

魔法・罠 1枚セット

モンスター ライトエンド・ドラゴン ATK 1600

丸藤亮

LP 1500

手札 2枚

魔法・罠 タイムカプセル

モンスター なし

「爽児君が逆転した。やっといつもの爽児君に戻ってくれた。」

「俺のターン、ドロ。俺はタイムカプセルの効果を発動。発動から2回目のスタンバイフェイズ時にデッキからサーチしたカードを手札に加える。」

地中から2ターン前の亮が埋めたタイムカプセルが開く。

「俺は魔法カードバイオレンス・リペアを発動する。俺は2ターンの通常召喚権を放棄し、墓地のモンスターを2体特殊召喚。俺が召喚するのは勿論サイバー・ドラゴン2体だ。」

サイバー・ドラゴン ATK 2100×2

「この効果で召喚したモンスターの効果は無効にされ、攻撃宣言と表示形式の変更を行えない。」

「何のためにこんなデメリットを・・・まさかこのターンで決める気なんじゃ・・・ってことはまさかタイムカプセルで手札に加えたカードは!?!」

「その顔、気づいたようだな。魔法カードパワー・ボンド発動!俺は場の2体のサイバー・ドラゴンと手札のサイバー・ドラゴンを融合。来い、サイバー流の切り札、サイバー・エンド・ドラゴンを召喚。パワー・ボンドの効果で召喚されたモンスターの攻撃力は倍となる。」

サイバー・エンド・ドラゴン    ATK    4000⇒8000

「サイバー・エンドでライトエンド・ドラゴンを攻撃、エターナル・エヴォリュション・バースト!!」

「俺は罠カード、くず鉄のかかしを発動。相手の攻撃を1回無効にする。」

サイバー・エンド・ドラゴンが放った巨大な光線がかかしの形の鉄の塊に防がれる。

「さすがだな、だが俺はお前の1歩先に行く。俺は融合解除を発動。墓地のサイバー・ドラゴン3体を特殊召喚。コレでくず鉄のかかしも使えまい。」

サイバー・ドラゴン    ATK    2100×3

「俺の負けか。」

「サイバー・ドラゴンでライトエンド・ドラゴンに攻撃、エヴォリ  
ューション・バースト！」

「ライトエンドの効果で攻撃力を下げる。」

ライトエンド・ドラゴン    A T K    1 6 0 0 ⇒ 1 1 0 0

サイバー・ドラゴン    A T K    2 1 0 0 ⇒ 6 0 0

丸藤亮    L P    1 5 0 0 ⇒ 1 0 0 0

「2体目のサイバー・ドラゴンで攻撃、エヴォリューション・バ  
ースト！」

「ライトエンド、効果発動。」

ライトエンド・ドラゴン    A T K    1 1 0 0 ⇒ 6 0 0

サイバー・ドラゴン    A T K    2 1 0 0 ⇒ 6 0 0

弱体化した2体のモンスターは相打ちする。

「これで終わりだ、3体目のサイバー・ドラゴンで攻撃、エヴォリ  
ューション・バースト！！！」

爽児    L P    1 9 0 0 ⇒ 0

同じ負け。闇の決闘者の時も今の亮の時も同じ敗北。だけど不思議  
と爽児は清々しかった。そして・



コンコン

「開いてるぞ。」

部屋の中から入る許可が出たので楓は爽児の部屋へと入った。

ここに来たのは初めてでも2，3回目でもない。

楓は月1テストなどはここで爽児に勉強を教えてもらい、暇なときは遊びに来てデュエルするなど気軽にこの部屋に入ってきていた。しかしそれは爽児が好きだと自覚する前の話、爽児を異性として意識しだした今楓は妙に緊張していた。

「話って何？」

「カイザーから聞いたんだけど、俺があんなことになってる間ずっと心配してくれたんだな。ありがとう。」

「いいよ、そんなの。私達友達でしょ。困ってるときならいつでも助けるよ。」

「頼もしいな。それが言いたいことの1つでもう一個は、特に十代とか明日香には秘密にしてくれるか？」

「う、うん。」

二人きりの秘密に妙に緊張する楓。

「実は・・・」

爽児はすべてを語った。あの日に暇をしてたら闇の決闘者に会って、痛みが現実となって、完膚なきまで叩きのめされて自信を碎かれた



こと、だけど奇跡的に生きていたこと。すべてだ。

「それでその決闘者のデッキはなんだったの？」

「・・・インヴェルズだ。」

楓は驚きの表情を隠せず、同時に爽児は確信した。

「お互い薄々気づいてると思うけど、俺はもともとこの世界には存在しない、いわゆる転生者なんだ。なあ楓お前も「うん、私も元の世界から転生したの。」・・・やっぱりそうか。」

その後二人は自分達がいづ転生したか、ちなみにほぼ同時期だった、どんな感じだったかなどを話し合った。

「・・・あとこんな時に言うのも何なんだけど、もう一個重要な話がある。」

爽児の目が突然真剣になって楓を見つめた。

「俺と・・・付き合ってくれないか？」

## VS学園最強の男(後編) (後書き)

ついに爽児と楓が転生の話をカミングアウト、二人の過去編、というより転生前の話、転生がどんな感じだったかについていうのはいつかやります。(無責任)

今回の最強カードは「バイオレンス・リペア」オリカです  
まずは効果から

### 通常魔法

自分フィールド上にモンスターが存在しない場合のみこのカードを発動することが出来る。このカードを発動する場合、自分はこのターンと次の自分のターン召喚・反転召喚をすることができない。墓地に存在するレベル5以下の機械族モンスターを2体攻撃表示で特殊召喚する。この効果で特殊召喚したモンスターは効果が無効にされ、攻撃宣言と表示形式の変更が出来ない。次の自分のターンのエンドフェイズ時にこの効果で特殊召喚したモンスターを破壊する。

効果自体はレベル5以下機械族モンスターを対象とした死者蘇生2回分と同じ。しかし2ターンの通常召喚権を失う上に攻撃、効果発動、表示形式の変更のいずれも出来ないのが不便。そのモンスターが破壊されたら次のターンはがら空きでピンチに陥るハイリスク・ハイリターンなカードです。もし使うのなら作中のように1ターンで倒せる状況にしましょう。

今回は第1章最終話。爽児の告白はどうなる？そして・・・

## **V S 十代&明日香（前書き）**

こんにちは、千です。

今回でついに第一章完結です。

ここまで読んでくれた方々ありがとうございます。

それではお楽しみ下さい。

## V S 十代&明日香

「俺と付き合ってくれないか？」

「・・・えっ？」

楓は自分の後ろに振り向いた。勿論この部屋には爽児と楓しかない。

「・・・私？」

「うん、そうだ。」

爽児は堂々と楓の目を見つめて言うも、頬が赤くなってるのは明らかだった。  
その瞬間

「グスッ・・・」

楓が泣き出した。

「か、楓？ごめん、別に泣かせるつもりで行った訳じゃなくて・・・  
。ゴメン、忘れてくれ・・・」

「違う、違うの。私も爽児君のことが好きだから、ずっと好きだったから、爽児君も私と同じ気持ちでいてくれて、嬉しくなって・・・」

「えっ、それじゃあ、」

「私なんかでよかったら、グスッ、付き合ってください。」

そういう終わると楓は爽児の胸に飛びこみ、抱きついて、爽児も無言で腕を楓の背中に回した。

お互い一言も喋らなかったけど思いはちゃんと通じ合ってた。こうして爽児と楓はカップルとなったのである。

「よく考えたらKKKで告白の練習した意味なかったなあ。」

ぼんやり爽児の胸の中でこんなのきなことを考えてた楓であった。

この日を境に二人の距離が縮まったのは明らかだった。告白の事実を知ってるのはKKKのメンバーだけだったが（楓が折角協力してくれたのだから）と思い結果を教えた。ちなみに楓がKKKのことを話したら爽児は大爆笑したという）毎日女子寮近くまで迎えに行って一緒に登校したり、たまに手をつないだりする様子は瞬く間に噂され、学園中に1週間ぐらいで広まった。（このため、爽児のファンクラブは大打撃を受け、恵は2日間ショックで寝込んだという）

――――  
――――  
――――

「今日の授業はタッグデュエルをやるノーネ。生徒は各自ペアを組むノーネ。ただし、男女でペアになるようにするノーネ。」

周りからは「ええ」とか「まじか」とか嘆いてたり「田中さんやろうぜ」など早速誘ってたりする。

本来なら自分もこの一人だったのだが

「爽児君、がんばろっ！」

今の俺には楓がいる。転生前は俺もあの負け組みだったが、今はリア充だぜ！まわりが「ヒューヒュー」とか「熱いね」とか言ってるけど嫉妬してるだけだろ。けどそれに照れてる楓もかわいいけどな。

デュエル形式はトーナメント戦方式で4ブロックでデュエル、ブロック優勝者がもう一人のブロック優勝者と、すなわち準決勝を行い、そして最終的にブロック優勝者に勝った人同士で結晶のデュエルするというオーソドックスなタイプだ。俺と楓はぐんぐん勝ち進んで行き、ブロック優勝は勿論、準決勝も余裕で勝ちだった。結晶で俺達の前に立ちはだかった相手は・・・

「爽児！楽しいデュエルしようぜ。前とは違って負けねえぞ！」

「前の偽ラブレターの一件の時とは別のメンバーでタッグやるのね。ちよつと楓は最近幸せすぎだから軽く不幸のどん底に落としてあげましょうか。」

あいつはなんてことを言うんだ。十代も苦笑いしてるぞ。

「「「決闘」」」

爽児&楓ペア      LP      4000

十代&明日香ペア      LP      4000

「先攻は貰うぜ、ドロー。俺はサイレント・マジシャンLV4を攻撃表示で召喚だぜ。」

サイレント・マジシャンLV4 ATK 1000

「「サイレント・マジシャン（だと・ですって）」」

そう、このデッキは楓とのタッグ専用デッキ。前十代とやって気づいたんだけど俺のドラゴンデッキは大量のモンスター展開と罠カードがあるからパートナーのジャマをするんだよな。だから調整もかねて俺も魔法使い族を組んでみたら面白かった訳だ。

「俺は魔法カード二重召喚で2回の通常召喚をする。俺は王立魔法図書館を守備表示で召喚。」

王立魔法図書館 DEF 2000

魔力カウンターを回すんだったら必須カードだよな。・・・多分（作者談）

「俺は魔法カードレベルアップを発動。サイレント・マジシャンを進化させる。来い、サイレント・マジシャンLV8！！

サイレント・マジシャンLV8 ATK 3500

白い服の美しい女魔術師がフィールドに現われる。

「魔法カードを発動したことにより王立魔法図書館は魔力カウンターを貯める。」

王立魔法図書館

魔力カウンター 0⇒1

「さらに俺は強欲な壺で2枚ドロ、天使の施しで3枚ドロして2枚捨てる。そして魔力カウンターを貯めるぜ。」

王立魔法図書館

魔力カウンター 1⇒2⇒3

「王立魔法図書館の魔力カウンターを3つ取り除くことでカードを1枚ドロ。カードを2枚セットしてターンエンドだ。」

王立魔法図書館

魔力カウンター 3⇒0

「さすが爽児。使い慣れてないデッキをここまで回す技術はさすがとしかいいようがない。」

観客席の三沢が解説してくれてる。ちなみに三沢のペアは恵で俺らとデュエルしたがスピリットの場もちの悪さを三沢が克服、三沢の火力の低さを恵が克服となかなかいいペアだったが、どちらも俺達の魔法使い族には勝てなかった。

「俺のターン、俺は融合を発動するぜ。手札のバーストレディとフェザーマンを融合してフレイム・ウィングマンを召喚するぜ。」

E・HEROフレイム・ウィングマン ATK 2100

「フレイム・ウィングマンで王立魔法図書館を攻撃、「させないぜ俺は魔法カードディメンション・マジックを発動、フィールド上の魔法使い族モンスターを生贄にささげ手札から魔法使い族モンスターを特殊召喚。そのあと相手のモンスターを1体破壊する。俺が召



喚するのは魔法の操り人形だ。」

2体のモンスターが棺おけに消し去られ、新しい棺おけから武器を持った操り人形が現われる。

魔法の操り人形 ATK 2000

「ちえ、カードを1枚セットしてターンエンドだ。」

「私のターンです、ドロー。私はテラ・フォーミングを発動します。デッキからフィールド魔法の魔法都市エンディミオンをサーチします。そして発動。」

「魔法カードが発動されるたびに魔力カウンターが貯まるぜ。」

魔法の操り人形 ATK 2000⇒2200⇒2400

魔力カウンター 0⇒1⇒2

「攻撃力が上がった？」

「十代、魔法の操り人形は貯めた魔力カウンターの数×200ポイントの数値攻撃力をあげるんだぜ。」

「私は魔力掌握を発動します。魔法都市エンディミオンにカウンターをのせて新たな魔力掌握をサーチします。魔力掌握は魔法カード、よって魔力カウンターがのります。」

魔法都市エンディミオン

魔力カウンター 0⇒1⇒2

魔法の操り人形 ATK 2400⇒2600  
魔力カウンター 2⇒3

「私はクルセイダー・オブ・エンディミオンを召喚します。」

クルセイダー・オブ・エンディミオン ATK 1900

「カードを3枚セットしターンエンドです。」

「私のターン、ドロー。私は儀式魔法機械天使の儀式を発動するわ。手札からレベルが8になるように生贄をささげ、サイバー・エンジェルー茶吉ニーを儀式召喚。」

サイバー・エンジェルー茶吉ニー ATK 2700

魔法都市エンディミオン  
魔力カウンター 2⇒3

魔法の操り人形 ATK 2600⇒2800  
魔力カウンター 3⇒4

「サイバー・エンジェルー茶吉ニーの効果発動。相手は自身のモンスターを選んで破壊する。」

「・・・私はクルセイダー・オブ・エンディミオンを破壊します。」

「私はリチュアル・ウェポンを装備、儀式モンスターの攻撃力を1500ポイントアップするわ。」

サイバー・エンジェルー茶吉ニー ATK 2700⇒4200

魔法都市エンディミオン  
魔力カウンター 3⇒4

魔法の操り人形 ATK 2800⇒3000  
魔力カウンター 4⇒5

「私は魔法の操り人形を攻撃するわ。」

サイバー・エンジェルー荼吉尼ーが飛び上がって攻撃しようとするが

「爽児君のモンスターは破壊させません。私は魔力集結を発動します。さらにチェーンして漆黒のパワーストーンを2枚発動します。対象は魔法の操り人形。」

漆黒のパワーストーン×2  
魔力カウンター 0⇒3⇒0

魔法都市エンディミオン  
魔力カウンター 4⇒0

魔法の操り人形 ATK 3000⇒4200⇒5000  
魔力カウンター 5⇒11⇒15

「サイバー・エンジェルー荼吉尼ーの攻撃力を上回ったですって？」  
サイバー・エンジェルー荼吉尼ーは勢いよく攻撃するもパワーアップした魔法の操り人形に破壊される。

「くっ、リチュアル・ウェポンの効果で儀式魔法を1枚手札に加え

る。私は機械天使の儀式を手札に加える。メインフェイズ2にサイバー・フェアリーを召喚。」

サイバー・フェアリー DEF 1200

「カードを1枚セットしたターン終了よ。」

「俺のターン、俺は魔法の操り人形の効果発動。このカードにのつてる魔力カウンターを2つ取り除き空いてモンスターを破壊。俺はサイバー・フェアリーを破壊する。」

魔法の操り人形 ATK 5000⇒4600  
魔力カウンター 15⇒13

「サイバー・フェアリーが破壊されたとき、墓地のサイバー・エンジェルを手札に加える。私はサイバー・エンジェル―荼吉尼―を手札に加える。」

「俺は魔法の操り人形でダイレクトアタック。」

「俺はヒーロー見参を発動。さあ選べ爽児。」

「勘で左のカード。」

「残念、クレイマンを守備表示で召喚。」

E・HEROクレイマン DEF 2000

「そのまま破壊だ。」

操り人形が振り下ろした剣がクレイマンを真つ二つにする。

「サイレント・マジシャンLV8で攻撃、サイレントバーニング！  
！」

すっかり空気と化してたサイレント・マジシャン

「うわぁ」

十代&明日香ペア    LP    4000⇒500

「ターンエンド。」

「く、俺のターン、俺は魔法カードミラクル・フュージョンを発動。  
墓地のE・HEROをゲームから除外して融合するぜ。俺はバース  
ト・レディとクレイマンを融合。来い、ランパートガンナー！！」

E・HEROランパートガンナー    DEF    2500

魔法都市エンディミオン

魔力カウンター    0⇒1

魔法の操り人形    ATK    4600⇒4800

魔力カウンター    13⇒14

「俺はランパートガンナーの効果発動。このカードが守備表示の場  
合、守備表示の状態で相手プレイヤーをダイレクトアタックする事  
ができる。その場合、このカードの攻撃力はダメージ計算時のみ半  
分になるけどな。ランパート・ショット！！」

「させない、俺は攻撃の無力化でバトルフェイズを終わらす。」

「通らないなあ。ターンエンドだ。」

「私のターン、私はメガトン魔導キャノンを発動します。魔法の操り人形のカウンターを10個取り除き相手のカードを全滅させます。」

魔法の操り人形 ATK 4800⇒2800⇒3000  
魔力カウンター 14⇒4⇒5

「サイレント・マジシャンLV8でダイレクトアタック、サイレント・バーニング!!」

「うわあ（きゃああ）」

十代&明日香ペア LP 500⇒0

「本日の実技タッグデュエル大会はセニョール爽児&楓ペアの優勝なノーネ。」

客席はいつの間にか生徒で満席、大歓声を浴びた。

やっぱデュエルは楽しいぜ。

さて・・・これからはセブンスターズとの戦い。用心しなきゃな。

## V S 十代&明日香（後書き）

ぶっちゃけサイレント・マジシャンいらねえ。個人的にあのカードが好きで出したんですけどまったく活かせてない・・・orz。

さて・・・今日の最強カードは「サイレント・マジ」じゃなくて魔法の操り人形だろ、このゴミ作者が・・・サイレント・マジシャンもつとちゃんと書けよ・・・今あれがものすごい落ち込んでるから今回は俺がやるか。まずは効果から見てみようぜ。」

### 効果モンスター

閻属性／魔法使い族／星5／ATK 2000／DEF 1000  
このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、自分または相手が魔法カードを発動する度に、このカードに魔力カウンターを1つ置く。このカードに乗っている魔力カウンター1個につき、このカードの攻撃力は200ポイントアップする。また、このカードに乗っている魔力カウンターを2つ取り除くことで、フィールド上に存在するモンスター1体を破壊する。

攻撃力2000はマジシャンズ・サークルで呼び出せる最高攻撃力なので魔法使い族デッキに1枚ぐらい入れても悪くないんじゃないかな。効果を見ると、まずは魔力カウンターを乗せる永続効果。これが魔力カウンター系の魔法使い族には大事なんだ。後者二つの効果はどちらもこの効果が基となってる。次は魔力カウンターの数に応じて攻撃力を増強する効果。そして最後は魔力カウンターを取り除きモンスターを破壊する効果。回数制限がなく、楓の魔法都市エンディミオンと組み合わせたらかなりのモンスターが除去できるぞ。けど3番目の効果を使いすぎると攻撃力が下がるから注意だな。

次の章はセブンスター編らしいからお楽しみに。それj「ちょっと、待った!!」 「・・・なんだお前まだいたのか・・・」 「新章に入る前に1章で出てきたオリカをまとめたり登場人物のプロフィールも書くのでお楽しみに。」

「「さようなら」」



## 第一章オリカ全集（前書き）

はいこんにちは。千です。

この小説の1章で出てきたオリカは全部書いてるはず。  
カード効果と使用者が書いてます。

尚書式は遊戯王カードwikiと同じ感じにしています。

## 第一章オリカ全集

魔力集結（葉月楓）

通常罨

自分フィールド上の魔力カウンターを乗せることが出来るカードを1枚選択して発動する。フィールド上の魔力カウンターを全て取り除き、取り除いた数と同じ数だけ魔力カウンターを選択したカードに乗せる。

エクプロージョン・エクスペリメント（三沢大地）

通常魔法

自分フィールド上の「オキシゲドン」「ハイドロゲドン」炎属性・炎族モンスターを生贄にささげ手札、デッキ、墓地から「ファイヤー・ドラゴン」を1体特殊召喚する。

ファイヤー・ドラゴン（三沢大地）

効果モンスター

星8／炎属性／炎族／攻2800／守2600

このカードは通常召喚できない。

「エクスプロージョン・エクスペリメント」の効果でのみ特殊召喚することができる。1ターンに1度、手札の炎属性・炎族モンスターを墓地に送ることで相手フィールド上にセットされている魔法・罨カード1枚を破壊する事ができる。この効果の発動に対して魔法・罨カードを発動する事はできない。このモンスターがこのカードが守備表示モンスターを攻撃した時、その守備力を攻撃力が超えていれば、その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

竜の咆哮（黒鉄爽児）

カウンター罨

自分フィールド上のレベル7以上のドラゴン族モンスターを生贄にささげる。相手が発動した魔法・罠・モンスター効果を無効にし破壊する。

インヴェルズ・フライ（闇の決闘者）

効果モンスター

星6／闇属性／悪魔族／攻2300／守 0

「インヴェルズ」と名のついたモンスターをリリースしてこのカードのアドバンス召喚に成功した時、

1000ライフポイントを払う事で、相手の手札を見る。その後カードを1枚選択し、墓地に送る。

無限追撃（黒鉄爽児）

速攻魔法

自分フィールドのモンスターが相手モンスターを戦闘で破壊したときに発動することが出来る。そのモンスターは通常の攻撃宣言に加えてもう1度攻撃宣言を行える。そうした場合、自分フィールド上の他のモンスターは攻撃することが出来ない。

バイオレンス・リペア（丸藤亮）

通常魔法

自分フィールド上にモンスターが存在しない場合のみこのカードを発動することが出来る。このカードを発動する場合、自分はこのターンと次の自分のターン召喚・反転召喚をすることができない。墓地に存在するレベル5以下の機械族モンスターを2体攻撃表示で特殊召喚する。この効果で特殊召喚したモンスターは効果が無効にされ、攻撃宣言と表示形式の変更が出来ない。次の自分のターンのエンドフェイズ時にこの効果で特殊召喚したモンスターを破壊する。

リチュアル・ウェポン（天上院明日香）

## 装備魔法

このカードは儀式モンスターにのみ装備可能。装備モンスターの攻撃力は1500ポイントアップする。また装備モンスターが戦闘で破壊されたとき墓地の儀式魔法を1枚手札に加えることが出来る。

サイバー・フェアリー（天上院明日香）

効果モンスター

星3／光属性／機械族／攻1000／守1200

このモンスターが戦闘で破壊されたとき、墓地の「サイバー・エンジェル」と名のつく儀式モンスターを1枚手札に加える。

## 第一章オリカ全集（後書き）

意外と多いようで少ないですね。さて、作者千の勝手な独断と偏見で選ぶ第一章オリカ大賞は・・・速攻魔法「無限追撃」!!! イエーパチパチ。

その理由はこんなカードあったらいいなと思うのが最も多いのは無限追撃でしたからね。次はオリキャラ名鑑をお送りします。

お楽しみに。

## オリキャラ名鑑（前書き）

はい〜こんにちは。

オリカ全集に続きお送りするのがこのオリキャラ名鑑！

これはオリカ全集と違い毎章の終わりごとに書いていく訳ではなく、第2章以降のオリキャラもここに更新されるので、もし連載が続いて

「あれ、こいつ誰だっけ？」

見たいな感じになったらここをご覧あれ。

ではどうぞ。

## オリキャラ名鑑

### 黒鉄爽児

小説の主人公。性別は男、16歳。好きなものは楽しいデュエル、食事、楓、昼ねで嫌いなものはデュエルや他人を侮辱する人、やたらうるさい人、たいして実力がないのに威張る人。現在葉月楓と交際中。転生者（つまりもともこの世界にいない人）である。

性格は真面目さとルーズさ、冷静と情熱の二つを持ち合わせてる。外見はBLACK CATのトレイン・ハートネットと瓜二つ。

愛用するデッキは「ドラゴン族」。ライトエンド・ドラゴン、ダークエンド・ドラゴン、光と闇の竜など重量のドラゴンを大量展開する重火力なビートダウン。アカデミアの中では無敵で、唯一丸藤亮に負けたことを除けば、学園で負けたことがない。（闇の決闘者にも敗北。）

また上記のドラゴン族デッキの他に楓の時のタッグのために使われた「魔力カウンター」のデッキも扱う。切り札はサイレント・マジシャン、魔法の操り人形など。それ以外にもデッキをたくさん使った経験があり、三沢曰く「使い慣れてないデッキをここまで回す技術はさすがとしかいいようがない。」だそうだ。

### 葉月楓

小説のヒロイン。勿論性別は女、16歳。好きなものは爽児とのデュエル、爽児と一緒にいること、爽児の寝顔を見るなど爽児を溺愛してる。嫌いなものは虫、幽霊や怪談などの怖いもの、テスト、ナルシストなど。現在爽児と交際中。楓も転生者である。

性格はおくびようで人見知りだけど自分の意見はしっかり持つタイプ。外見はBABY STEPSの鷹崎奈津（分らない人はぐぐ

ってね)。スタイルは抜群で明日香にも劣らないプロポーションの持ち主。尚運動神経が悪い。

使用デッキは「魔力カウンター」。魔法都市エンディミオンで大量に魔力カウンターをためるデッキだ。デュエルの腕はかなり高く、明日香に勝るほどだが勉強が苦手で、明日香より成績が低い。

#### 一条恵

小説の準ヒロイン兼恋のライバルになる予定だったが作者の都合によって結局失恋しただけとなったかわいそうなオベリスク女子。17歳で実は先輩。好きなものは爽児に関する妄想で嫌いなものは楓（嫌いというより嫉妬してるだけ）

堂々としている性格で外見はT o o v e r の天条院沙希にそっくり。プロポーションもかなり高くて明日香、楓と並び学園でモテる女子ランキングでは常に上位。

使用デッキは「スピリット」で一癖も二癖もあるスピリットを巧みに動かすプレイングは爽児たちを関心されるほど。成績も上の中くらいで頭がいい。

#### 闇の決闘者

作中で始めて爽児を倒した人物。本人は自身が転生者だと言っており、「闇」に魂を売った。神になると豪語するほどの野心があり、実力も十二分。

使用デッキは「インヴェルズ」という生贄召喚主体のデッキ。デッキのプレイングに無駄がなく、生贄召喚の難点である生贄を余裕で確保して上級モンスターにつなげるといった隙のないプレイをする。闇の決闘で爽児から1ポイントも奪われずに勝利するも、爽児の命は取らずに姿を消す、謎が多い男。

外見はBLACK CATのシャルデン・フランベルグに似ている。



## オリキャラ名鑑（後書き）

前書きでもあるようにオリキャラができれば基本ここに書きますので  
暇な人は見てくれるとありがたいです。

## レッドアイズの恐怖（前書き）

こんにちは、この度はこんな駄作をここまで読んでくださってありがとうございます。

ちなみに今回からタイトルを「VS」から少し変えてみます（友人にタイトルが酷いっていわれたから）

では2章のセブンスターズ編の第一話、お楽しみ下さい

## レッドアイズの恐怖

「万丈目準くん、天上院明日香くん、三沢大地くん、遊城十代くん、葉月楓くん、丸藤亮くん、黒鉄爽児くん。今名前を呼ばれた7名は至急校長室へ来ること。」

突然校内放送で今みたいなアナウンスが流れる。アカデミアでもトップレベルの生徒を召集するのは何事だ、と周りは騒いでる。もし俺があいつらの立場でも焦っただろうな。けど俺には原作知識があるからおそらく今は・・・

「君達は三幻魔というカードを知ってるかね？」

セブンスターズとのデュエルだな。今俺達は校長室にいる。俺と楓以外は三幻魔の存在に驚いたり、そもそも存在自体を知らない（これは十代）など別々なリアクションを取っていた。

「この学園に三幻神に匹敵する力を持つ三幻魔が封印されている。しかしセブンスターズという集団が、三幻魔復活を狙っているとの情報が入った。そこで君達には三幻魔を封印している七精門の鍵を預かって欲しい。」

「ちょっと待ってください。」

クロノスが口を挟む。

「なんだね、クロノス先生？」

「なぜそんな危険な事を生徒達に任せるのーネ？私達教員が預か

ればいいノーネ。」

クロノス教諭の言うことは正論でぶっちゃけ俺も思ってた。

「私も本当はこんな危険なことを生徒達に任せたくないのだが不本意ながらそうすると七精門の鍵を奪われる可能性が最も低いのだ。七精門の鍵はデュエルで相手から奪うことで手に入る。ここにいる生徒達は私達より遥か上の实力を持つ。この学園を守るためにも生徒達に任せるしかないのです。」

その時カイザーが意味ありげな目線を鮫島校長に送った。たぶん、サイバー流師範である彼が弱いはずがない。なぜ彼が鍵を預からないのかが心底疑問だったんだろう。

「ぐぬぬぬぬ・・・しかし・・・でも・・・だけど・・・」

クロノスも生徒の心配をしてくれるのは有難いがさすがに彼の实力じゃあなあ。

仕方ないや、決まりそうにないから俺が切り出すか。

「よくわかんねえけどこの鍵を守ればいいんだろ？俺はやるぜ。」

そう言って俺は真ん中の鍵をとる。

「爽児君がやるんだったら私も。」

楓も俺のとったやつ横の鍵をとる。

「いいじゃねえか、面白そうだぜ、セブンなんかとのデュエル！」

十代がわくわくした口調で言う。

「この万丈目サンダー、鍵は確かに預かった！」

「三幻魔は復活させないわ。」

「うん、俺も頑張らせてもらいます。」

「・・・」

俺⇒楓⇒十代⇒万丈目⇒明日香⇒三沢⇒カイザーの順で鍵を取り、  
各々隠した。

――――  
――――  
――――

時は少し流れ早速セブンスターズの一人、ダークネス吹雪が十代に  
デュエルを挑んだ。

「デュエルか？楽しそうだな。」

「ふははは、デュエルが楽しい？闇の決闘の前で楽しいという言葉  
などいらん。」

そのあと原作どおり翔たちを人質としたデュエルが始まった。

「決闘」

ダークネス吹雪 LP 4000

十代 LP 4000

「俺のターン、ドロー。俺は黒竜の雛を召喚。」

黒竜の雛 DEF 500

「黒竜の雛の効果発動。自分フィールド上に表側表示で存在するこのカードを墓地へ送って手札から真紅眼の黒竜1体を特殊召喚する。来いレッドアイズ!!」

真紅眼の黒竜 ATK 2400

「デュエルモンスターのルール上1ターン目は攻撃できない。けど俺は魔法カード黒炎弾を発動。真紅眼の黒竜の攻撃を放棄する代わりに貴様に2400ポイントのダメージを与える。行け、レッドアイズ、黒炎弾!!」

真紅眼の黒竜が紅色の爆風を放つ。そして容赦なく十代を襲う。

「うわああ!!」

十代 LP 4000⇒1600

「うう、・・・痛え・・・」

「当然、これは闇の決闘。プレイヤーが受けるダメージは現実となる!俺はカードを2枚セットターンエンドだ。」

「はあはあ、・・・く、俺のターン、ドロー・・・ハアハア」

「ふはははは、もう息が上がってるぞ。もう終わりか？」

「うるせえよ、俺は魔法カード融合でバーストレディとクレイマンを融合、はあはあ、来いランパートガンナー。」

E・HEROランパートガンナー DEF 2500

〔真紅眼の黒竜の攻撃力を上回った。これで少しは攻撃が防げるはず。。。〕

「このカードは守備表示の時、守備表示の状態で相手プレイヤーを直接攻撃する事ができる。行け、ランパート・ショット!!」

ちなみに日本ではE・HEROランパートガンナーは本当は相手フィールド上にモンスターがいない場合に直接攻撃が出来る。(各国で裁定は異なる。)

「く、がはあ・・・」

ダークネス吹雪 LP 4000⇒3000

「なんだ、お前も痛いんだな・・・」

「・・・ふん、この程度。」

「ターンエンドだ。」

「俺のターン、俺は針虫の巣窟を発動し、デッキの上からカードを5枚墓地に送る。」

「・・・自分のデッキを破壊した？」

意味が分からない十代。

「俺のフィールドの真紅眼を生贄に究極のレッドアイズ、真紅眼の闇竜を特殊召喚！！」

真紅眼の闇竜    ATK    2400

「それでも俺のランパートガンナーの方が守備力は上。」

「甘い、真紅眼の闇竜は墓地のドラゴン1体につき攻撃力を300ポイント上昇させる。さっきのデッキ破壊で墓地に送られたドラゴンは3枚、黒竜の雛と真紅眼の黒竜とあわせて5体。よって真紅眼の闇竜の攻撃力は・・・」

真紅眼の闇竜    ATK    2400⇒3900

「攻撃力3900だと！？」

「まずい、ランパートガンナーを上回った。」

「まだだ、俺は永続罠、竜の逆鱗を発動。俺のドラゴンは貫通効果を得る。行け真紅眼の闇竜、ダークネス・ギガ・フレイム！！！！」

真紅眼の闇竜は大きな黒い火の玉をランパートガンナーを十代と一緒に焼き尽くす。

「うわあああああ」



十代 LP 1600⇒200

「はあはあはあ」

「ふはははは、これがダークネスの力、貴様などでは太刀打ちできない。」

## レッドアイズの恐怖（後書き）

第2章初の最強カードは真紅眼の黒竜、最強カードシリーズ初のバニラです。

通常モンスター

星7／闇属性／ドラゴン族／攻2400／守2000

真紅の眼を持つ黒竜。怒りの黒き炎はその眼に映る者全てを焼き尽くす。

攻撃力も最上級モンスターとしてはとても低いですが、黒竜の雛、黒炎弾等専用サポートが多数存在する上に闇属性・ドラゴン族・通常モンスターと非常に恵まれたスタータスを持っています。進化形態や融合体も多数存在し、アニメでは青眼の白竜の対を成すレアカードです。新ストラクチャーのドラゴニック・レギオンに収録されたので興味がある方は買ってみたら？

次回は十代VS吹雪決着。戦いの勝者は？

## ダークネスの正体（前書き）

今回は吹雪との決着です。

どうぞ

## ダークネスの正体

「爽児君、明日香ちゃん、早く！」

「ハアハア楓、状況はどうだ？」

楓は1ターン目から火山の上でデュエルを観戦してた。

十代の芳しくない状況を聞いて明日香は不安になるも、十代を信じることにした。

そして爽児は冷静にフィールドを見つめ、観戦した。

ダークネス吹雪

LP 3000

手札 1枚

魔法・罠 なし

モンスター 真紅眼の闇竜 ATK 3900

十代

LP 200

手札 3枚

魔法・罠 なし

モンスター なし

「はあはあ……く、……俺のターン、ドロー！」

闇のデュエルで痛みが現実となっているので十代はいつもとは違う意味で追い込まれてた。

「俺は魔法カード融合回収を発動。墓地の融合とバーストレディを

手札に加える。ハアハア・そして俺はバーストレディを守備表示で召喚。」

E・HEROバーストレディ DEF 800

「カードを1枚セットしてターンエンドだ。」

「ふはははは、俺のレッドアイズの前に成す術がないか？俺のターン、ドロロー。まずは魔法カード命削りの宝札でカードを5枚ドロロー！！俺は黙する使者を発動。墓地の通常モンスターを守備表示で召喚。俺は真紅眼の黒竜を蘇生する！」

真紅眼の黒竜 DEF 2000

真紅眼の闇竜 ATK 3900⇒3600

「そして俺は手札からトラップ・ブースターを発動。手札の真紅眼の飛竜を捨て手札からメタル化魔法反射装甲を発動し、真紅眼の黒竜に装備。そしてメタル化魔法反射装甲を装備したレッドアイズを生贄にデッキからレッドアイズ・ブラックメタルドラゴンを特殊召喚！！」

レッドアイズ・ブラックメタルドラゴン ATK 2800

「そして墓地にドラゴン族が貯まったことにより再び真紅眼の闇竜の攻撃力をアップする！」

真紅眼の闇竜 ATK 3600⇒4200

吹雪の前に2体の最上級ドラゴンが並ぶ。

「さすがだな。召喚条件が厳しいレッドアイズの進化モンスターを  
あんなに手軽に呼び出すなんてな。」

爽児は火山の上で感服してた。ちなみに火山の上と言っても岩だら  
けで実質マグマがある火口は小さく、岩場の方が圧倒的に多いため  
二人はこんなところから観戦出来る。

「ブラックメタル、雑魚モンスターを粉碎しろ、ダーク・メガ・フ  
レアー!!!」

跡形もなく女性のHEROは消滅する。

「俺はヒーロー・シグナルを発動。デッキからE・HEROワイル  
ドマンを守備表示で召喚する。」

E・HEROワイルドマンDEF 1600

「ふん、所詮悪あがき、行け、真紅眼の闇竜、ダークネス・ギガ・  
フレイム!!!!」

先ほど放たれた炎より一層大きい火炎弾がワイルドマンを襲う。

「ターンエンドだ。」

何とかダメージを食らわずに済んだ十代だが、ライフポイントは風  
前の灯。

「俺のターン、ドロー。俺は天使の施しを発動。カードを3枚ドロ  
ーして2枚捨てる。俺はE・HEROエッジマンを召喚。この時墓

地にいるネクロダークマンの効果で生贄なしで召喚できる。来い、エッジマン！」

E・HEROエッジマン    ATK    2600

「俺は装備魔法ソード・エッジを発動。装備モンスターの攻撃力を400ポイントアップさせる。俺はエッジマンに装備！」

E・HEROエッジマン    ATK    2600⇒3000

「バトル、エッジマンでレッドアイズ・ブラックメタルドラゴンに攻撃、ソード・エッジ・アタック！」

より鋭くなった剣を装備したエッジマンが鉄の竜を切り裂く。

「くっ、」

ダークネス吹雪    LP    3000⇒2800

「さらにソード・エッジの効果でお前に400ポイントのダメージを与える。」

エッジマンの攻撃の余波が吹雪を襲う。

「ちっ、」

ダークネス吹雪    LP    2800⇒2400

「カードを1枚セットしてターンエンド。」

「俺のターン、真紅眼の闇竜で攻撃ダークネス・ギガ・フレイム！」

真紅眼の闇竜が口元に炎の玉を作る。

「俺はエッジ・ハンマーを発動。エッジマンを生贄に相手モンスターを破壊してそのモンスターの攻撃力分のダメージを受けてもらう。そして装備されてたソード・エッジが破壊された時相手に400ポイントのダメージを与える。行け、エッジ・ハンマー!!!」

ダークネス吹雪 LP 2400⇒2000

「俺は速攻魔法ダークネス・アウトを発動する。フィールドの真紅眼の闇竜をデッキに戻し、墓地の真紅眼の黒竜を蘇生する。対象を失ったエッジ・ハンマーは不発だ。」

真紅眼の闇竜が黒い霧となって霧散し、エッジ・ハンマーが空振りする。そして黒い霧が真紅眼の黒竜となってフィールドに現われる。

真紅眼の黒竜 ATK 2400

「ふはははは、これで終わりだ。真紅眼の闇竜でダイレクトアタック、黒炎弾!!!」

「俺は墓地のネクロ・ガードナーをゲームから除外、攻撃を無効にする。」

「ちっ、いちいちつまらない小細工を……。ターンエンドだ。」

「俺のターン、強欲な壺でカードを2枚ドロ。俺は貪欲な壺を発



動、墓地のバーストレディ、クレイマン、ワイルドマン、エッジマン、ランパートガンナーをデッキに戻し2枚ドロ。俺は魔法カード融合を発動。手札のワイルドマンとエッジマンを融合。来いE・HEROワイルドジャーマン!!

E・HEROワイルドジャーマン    ATK    2600

「ワイルド・ジャーマンで真紅眼の黒竜を攻撃、インフェイニティ・エッジ・スライサー!!」

ダークネス吹雪    LP    2000⇒1800

「俺は速攻魔法融合解除を発動。ワイルドジャーマンを融合デッキに戻しワイルドマンとエッジマンを特殊召喚!」

E・HEROワイルドマン    ATK    1500

E・HEROエッジマン    ATK    2600

「な、何だと!!」

「これで俺の勝ちだ!エッジマンでダイレクトアタック、パワー・エッジ・アタック!!」

「ぐわあああああ」

ダークネス吹雪    LP    1800⇒0

エッジマンの攻撃で相手の仮面が真っ二つに破壊される。そしてダークネスの素顔が明らかにになる。

「あれは、兄さん？・・・兄さん！」

その後十代に蓄積されたダメージが十代を襲い、十代は気を失った。人質だった2人も爽児が助け、吹雪を含む4人を保健室まで連れていった。

――――  
――――  
――――

「兄さん・・・」

今明日香、三沢、万丈目、爽児、カイザー、楓は保健室にいる。

今さっき4人を保健室に預け、吹雪と十代は絶対安静ということで俺達はただ寝てる二人を見守った。

人質だった2人は精神的ダメージが大きいものも実際のダメージはほぼ無く、とりあえずベッドで寝てるところだった。

「・・・ということだ。」

カイザーの口から吹雪の正体、消息不明になったこと、明日香は兄を探す手がかりを峠でカイザーと情報交換をしたこと（これを聞いた時万丈目がホッとしてた）、そして廃寮に入っていたのは兄が消えた場所で手がかりを探すためだったらしい。

俺と楓は原作知識があるからそこまで驚かなかったけど、他のメンツは大分驚愕してた。というのも吹雪はかなり強いデュエリストで彼の消失事件はアカデミアでものすごい話題となったからだ。

このことを聞いた校長とクロノス先生が駆けつけてきて大騒ぎして

鮎川先生説教を食らったことを除けば保健室は静かだった。その沈黙を破ったのが爆音と誰かの悲鳴だった。

## ダークネスの正体（後書き）

今回の最強カードは真紅眼の闇竜！真紅眼の黒竜の進化版ですね。  
効果は・・・

効果モンスター

星9／闇属性／ドラゴン族／攻2400／守2000

このカードは通常召喚できない。

自分フィールド上に存在する「真紅眼の黒竜」1体を

リリースした場合のみ特殊召喚する事ができる。

このカードの攻撃力は、自分の墓地に存在するドラゴン族  
モンスター1体につき300ポイントアップする。

（遊戯王カードwiki）より

召喚条件は真紅眼の黒竜に特化したデッキなら簡単。攻撃力上昇効果は単純にして協力。F・G・Dとフューチャー・フュージョン、仮面竜や軍隊竜みたいなリクルーター、ライトロードや針虫の巣窟などで墓地肥やしましょう。7,8体ぐらい墓地送りにすれば戦闘破壊はほぼ不可能になります。けど弱点として一切の耐性をもっていないので除去には注意。

次回はクロノス先生久々の出番。お楽しみに。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0820ba/>

---

もう一人の英雄

2012年1月13日15時46分発行